

中学校部活動に関するアンケート結果について (令和4年11月)

平生町地域部活動検討委員会
平生町教育委員会社会教育課

1. 目的

関係者の現状とニーズを把握し、これからの協議の基礎資料とする。また、結果を広報にて掲載し、広く町民へ取組を周知する。

2. 対象者

- ・小学校5・6年児童 181人
- ・中学校生徒 230人
- ・保護者(家庭ごと) 295世帯
- ・中学校教員 22人

※全教員対象と部活動主顧問対象の2種類のアンケートを実施

- ・部活動指導員 12人

2. 実施方法

平生町電子申請サービスを利用したWEB調査および調査用紙での調査

3. 回答期間

令和4年7月8日～令和4年7月31日

4. 回答数(回収率)

- ・小学校5・6年児童 171(94.5%)
- ・中学校生徒 197(85.2%)
- ・保護者(家庭ごと) 108(36.6%)
- ・中学校教員(全教員対象) 22(100%)
- ・中学校教員(部活動主顧問対象) 14(100%)
- ・部活動指導員 12(100%)

5. 結果

- ・小学校5・6年児童.....2
- ・中学校生徒.....9
- ・保護者.....19
- ・部活動指導員.....27
- ・教員.....32

中学校部活動に関するアンケート（小学校児童用）結果

配布数 181 回答数 171（回答率 94.5%）

1. 学年

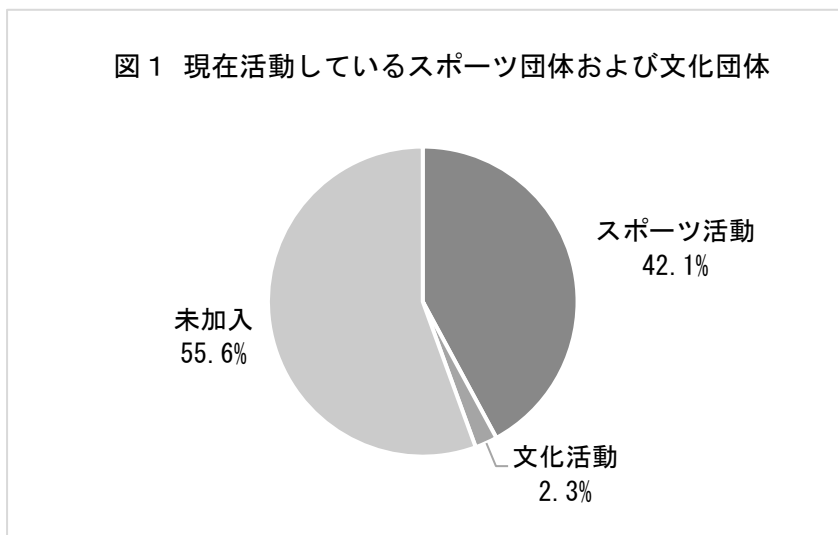
小学5年生	84
小学6年生	87

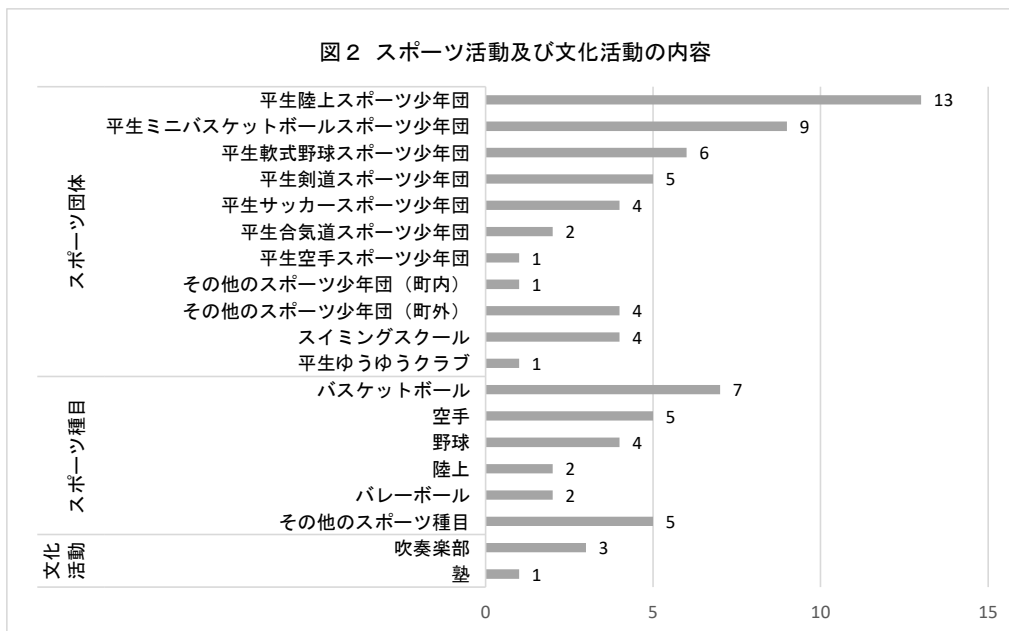
2. 性別

	全体	小学5年生	小学6年生
男子	76	37	39
女子	95	47	48

3. 現在、活動しているスポーツ団体や文化団体

団体名ではなく、種目名を回答した児童が多かったが、42.1%の児童がスポーツ活動、2.3%の児童が文化活動に取り組んでいるという回答であった（図1）。スポーツ種目としては、陸上、バスケットボール、野球、サッカーなどが多かった。スポーツ団体では、平生町スポーツ少年団の単位団に所属している児童が最も多く、次いで、町外のスポーツ少年団とスイミングスクールに所属している児童が多かった。文化団体としては、吹奏楽部3名、塾1名という回答であった（図2）。





4. 現在、入部したいと考えている部活動種目

入部したい部活動種目については、ソフトテニス部、バスケットボール部、卓球部を考えている児童が多かった（図3）。その他の回答としては、「まだ分からない」「帰宅」に加えて、「水泳部」「バドミントン部」「サッカー部」など平生中にない種目の回答が見られた。

この結果を男女別で分析すると、入部希望者の多いソフトテニス部、バスケットボール部、卓球部において、児童の性別による偏りは見られなかった。また、野球部とバレー部（女子）の入部希望者は、それぞれ、男子のみ、女子のみとなった。さらに、文化部（家庭科部、総合文化部、吹奏楽部）については、女子の希望者が多い中、男子の希望者が10～15%程度あった（図4）。男女別のその他の回答の傾向として、「サッカー部」と回答する男子児童が多かった。

一方で、現在の団体への加入の有無で分析すると、運動部において、団体未加入の児童は、スポーツ少年団の種目にない部（ソフトテニス部、卓球部、バレーボール部）への入部を希望する生徒が多い傾向にあった（図5）。

図3 入部したい部活動種目（複数回答）

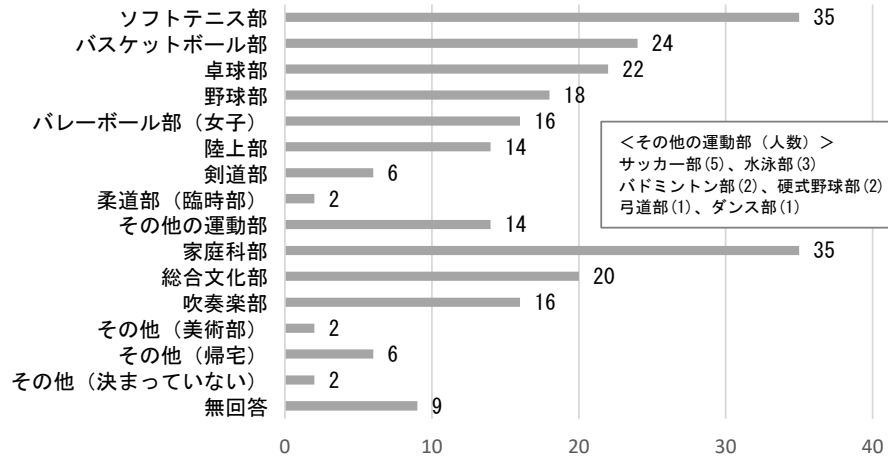
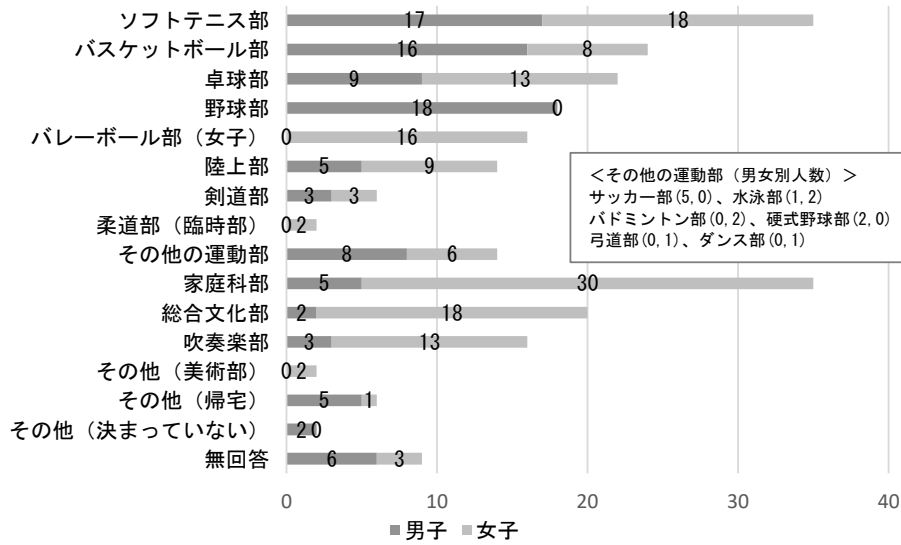
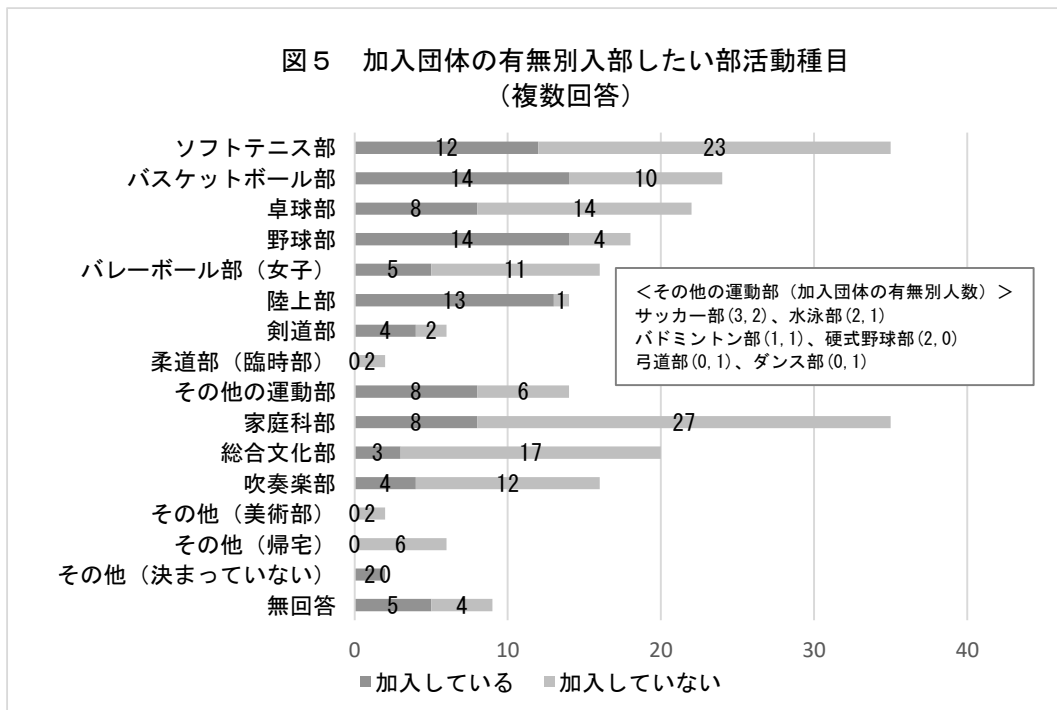


図4 男女別入部したい部活動種目（複数回答）

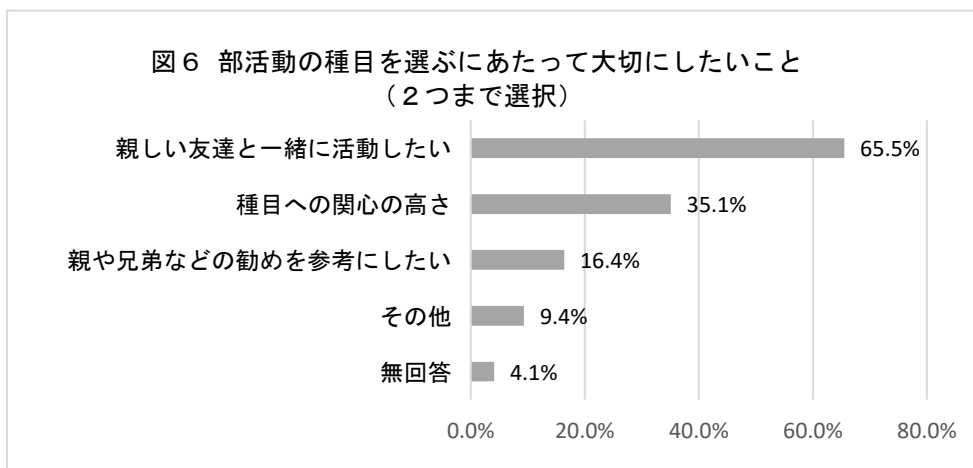


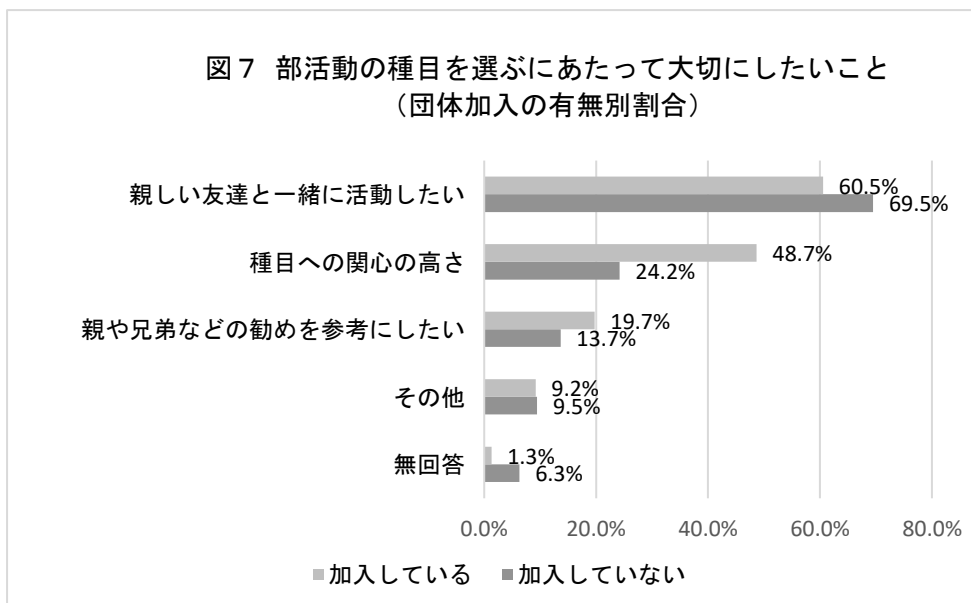


5. 部活動の種目を選ぶにあたって大切にしたいこと

部活動の種目を選ぶにあたって大切にしたいことについて、3つの項目から2つまで選ぶ設問としたところ、「親しい友達と一緒に活動したい」が一番多く、全体の約65.5%が選択した。続いて、「種目への関心の高さ」を大切にしたい児童が約35.1%、「親や兄弟などの勧めを参考にしたい」児童が16.4%という結果であった(図6)。なお、その他の回答として、「楽しくやりたい」「3年間続けられるか」「活動時間」などが挙げられた。

また、団体加入の有無で分析すると、特に、団体に加入している児童は、「種目への関心の高さ」を大切にしたいと考える傾向にあることが分かった(図7)。このことと、前項で示した結果から、小学生で始めた活動を中学生になっても続けたいと考える児童が多いと推測される。

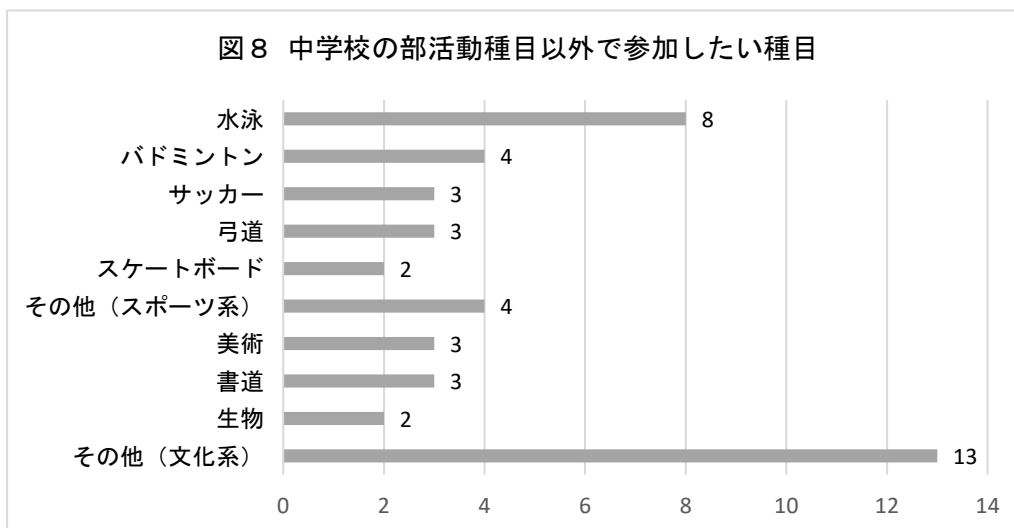




6. 中学校の部活動の種目以外で、参加したい種目

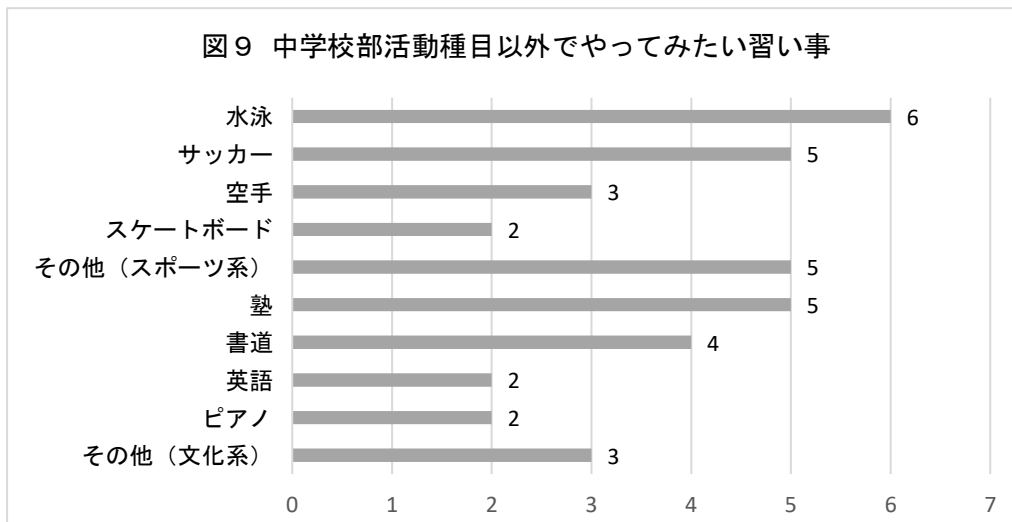
中学校の部活動の種目以外で参加したい種目について、スポーツ系では、水泳、バドミントン、サッカー、弓道の希望が多いことが分かった。文化系では、美術、書道、生物などの回答があった（図8）。

このことと前項までの結果から、水泳、サッカーなどの現在の活動を続けたいという傾向と、中学生になったらバドミントン、弓道、スケートボードに挑戦したいという傾向があることが分かった。



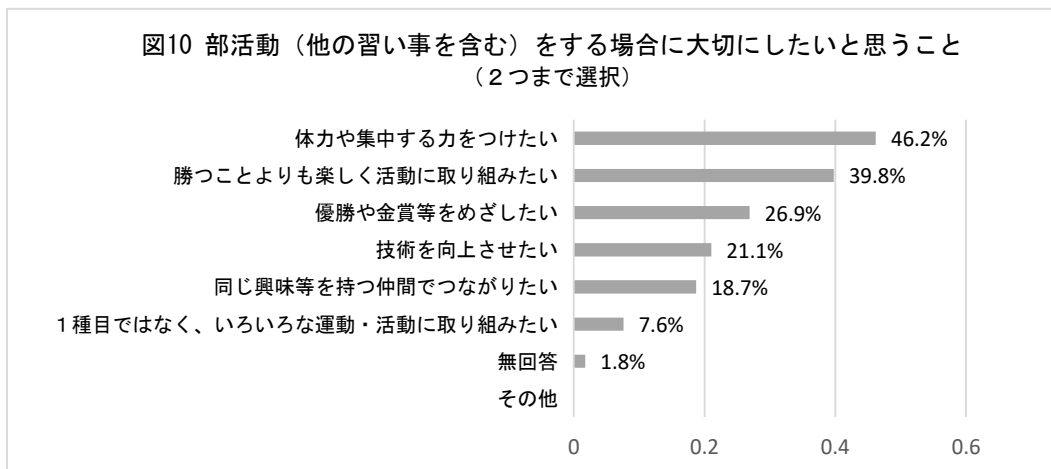
7. 中学校の部活動以外で、中学生になったらやってみたい習い事

中学校部活動以外でやってみたい習い事については、参加したい種目同様に、水泳とサッカーを希望する児童が多い結果になった。また、前項と共通して、スケートボードという回答があったことから、関心が高い児童がいることがうかがえる。文化系では、塾、書道、英語、ピアノなどが挙げられた（図9）。



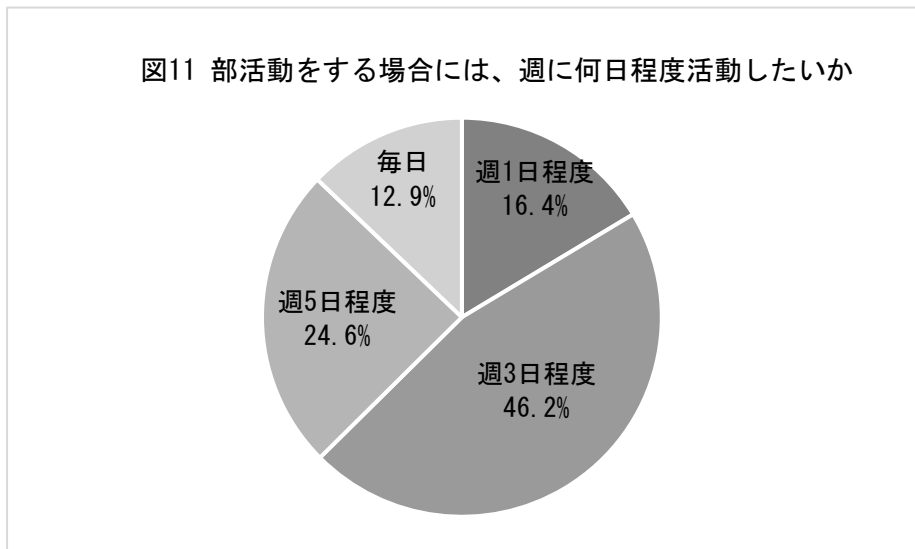
8. 部活動（他の習い事を含む）をする場合に大切にしたいこと

部活動（他の習い事を含む）をする場合に大切にしたいことについて、6つの項目から2つまで選ぶ設問としたところ、特に「体力や集中する力をつけたい」約46.2%、「勝つことよりも楽しく活動に取り組みたい」約39.8%という回答が多く、次いで、「優勝や金賞をめざしたい」約26.9%、「技術を向上させたい」約21.1%、「同じ興味を持つ仲間とつながりたい」約18.7%という回答であった。また、「1種目ではなく、いろいろな運動・活動に取り組みたい」という回答は約7.6%しかなかった（図9）。



9. 部活動をする場合に、週に何日程度参加したいか

部活動の1週間あたりの活動日数について、全体としては、週1日程度が16.4%、週3日程度が46.2%、週5日程度が24.6%、毎日が12.9%という結果であった（図11）。



中学校部活動に関するアンケート（中学校生徒用）結果

配布数 230 回答数 196（回答率 85.2%）

1. 学年

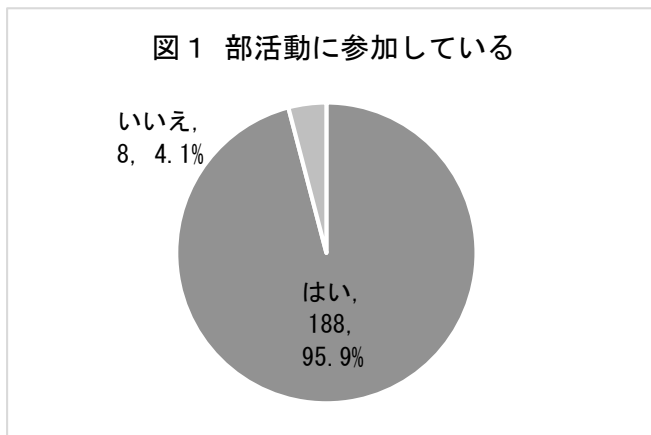
中学 1 年生	65
中学 2 年生	59
中学 3 年生	72

2. 性別

	全体	中学 1 年生	中学 2 年生	中学 3 年生
男子	102	38	25	39
女子	94	27	34	33

3. 中学校の部活動に参加している

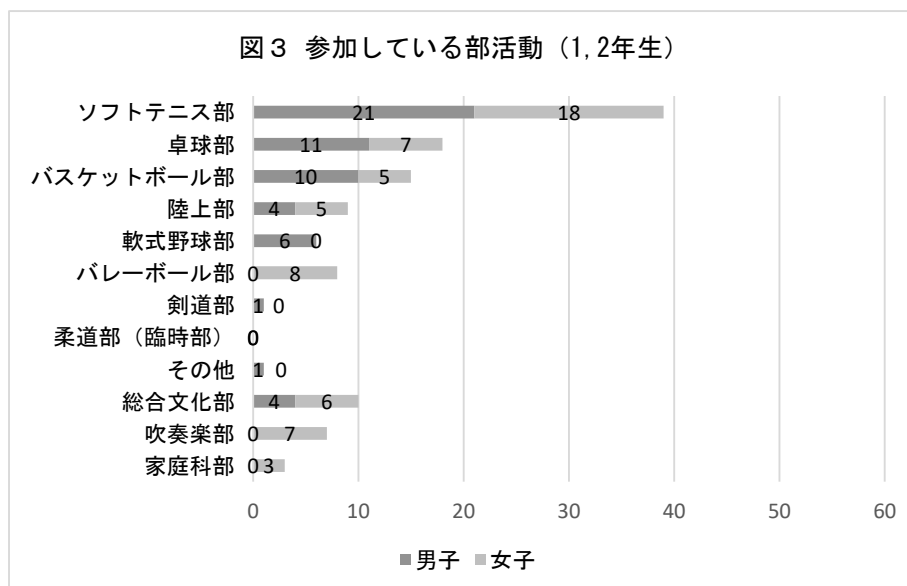
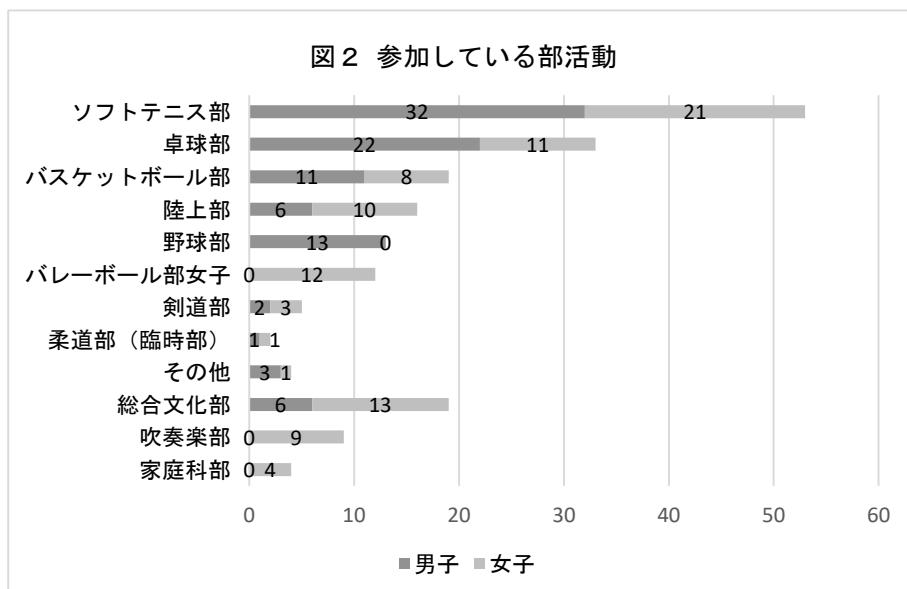
部活動に参加している生徒は 188 人(95.9%)で、参加していない生徒は 8 人(4.1%)であった（図 1）。



4. 参加している部活動（3で「はい」と答えた生徒のみ回答）

各部活動の所属生徒数について、運動部では、ソフトテニス部が最も多く男子32名、女子21名が所属している。次いで、卓球部（男子22名、女子11名）、バスケットボール部（男子11名、女子8名）、陸上部（男子6名、女子10名）、野球部（男子13名）、バレーボール部（女子12名）、剣道部（男子2名、女子3名）、柔道部（臨時部）という結果であった。また、文化部では、総合文化部が最も多く男子6名、女子13名が所属し、吹奏楽部は、女子9名、家庭科部は女子4名が所属している（図2）。このことから、球技系の個人種目を選ぶ生徒が多い傾向にあるといえよう。

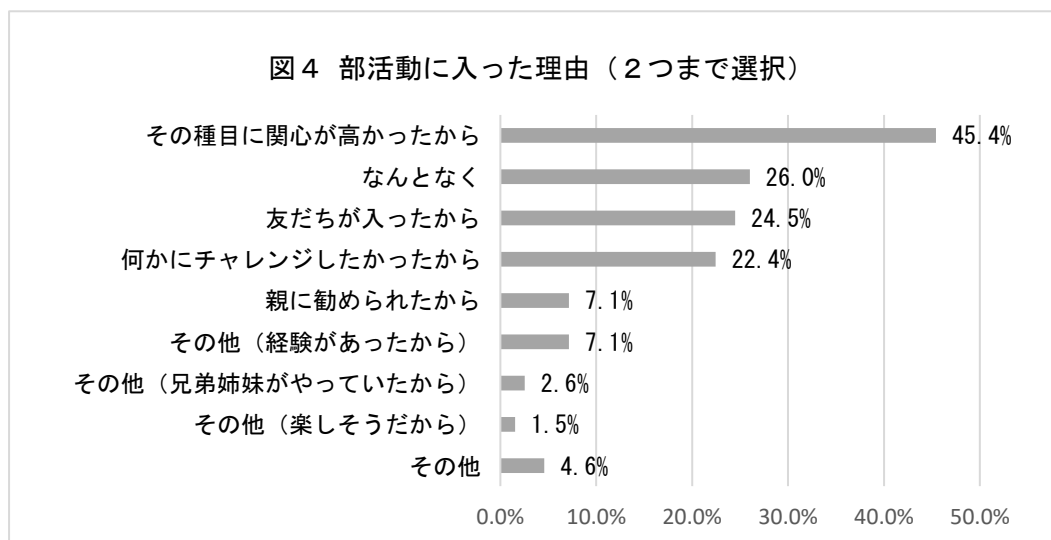
対象を1・2年生に絞って分析すると、野球部は6名で、単独では試合に参加できない状況にあることが分かった。また、バスケットボール部女子（5名）、バレーボール部女子（8名）については、試合には参加できるが、試合形式での練習ができない状況にあることが分かった（図3）。



5. 部活動に入った理由（3で「はい」と答えた生徒のみ回答）

部活動に入った理由について、5つの項目から2つまで選ぶ設問としたところ、「その種目に関心が高かったから」と回答した生徒が45.4%と最も多かった。続いて、「何となく」（26.0%）、「友だちが入ったから」（24.5%）、「何かにチャレンジしたかったから」（22.4%）を挙げる生徒が多く、「親に勧められたから」と回答した生徒は7.1%と最も少なかった。その他では、「経験があったから」や「兄弟姉妹がやっていたから」という回答が多かった（図4）。

この「経験があった」「兄弟姉妹がやっていた」という理由も広義に「種目への関心」と捉えると、約半数の生徒が「種目」で部活動を選択していると考えられる。また、約1/4の生徒が、「友だちが入ったから」という理由を挙げていることから、友人関係も部活動選択の際に大切な検討材料であるということが分かった。



6. 中学校に今ある種目とちがう種目（サッカーやバドミントンなど）があっても、今の種目に参加している（3で「はい」と答えた生徒のみ回答）

現在ある部活動以外の種目があったとしても、所属している種目を選ぶのかという設問について、「はい」と回答した生徒は82名（43.6%）、「わからない」60名（31.9%）、「いいえ」46名（24.5%）であった（図5）。

この結果を、5で「その種目に関心が高かった」と答えた生徒とそうでない生徒で分析すると、「はい」と回答した生徒は、種目への関心が高い生徒は56.2%で、そうでない生徒は32.3%という結果であった（図6、図7）。このことから、種目への関心と部活動種目が合致している生徒については、その種目を続けたいという意向があるが、そうでない生徒については、他の種目についても検討したいという意向があると推測される。

図5 中学校に今ある種目とちがう種目があっても
今の種目に参加している

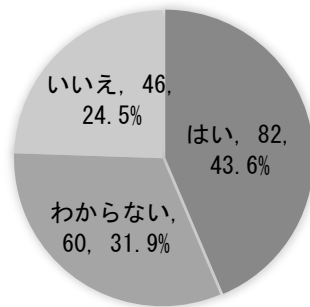


図6 中学校に今ある種目とちがう種目があっても
今の種目に参加している
(5で「その種目に関心が高かったから」を選択)

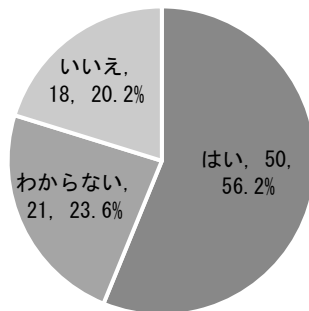
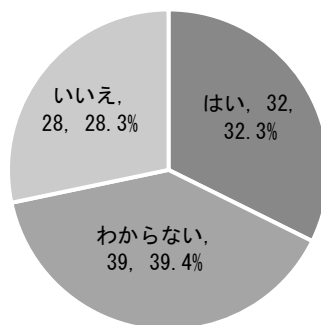


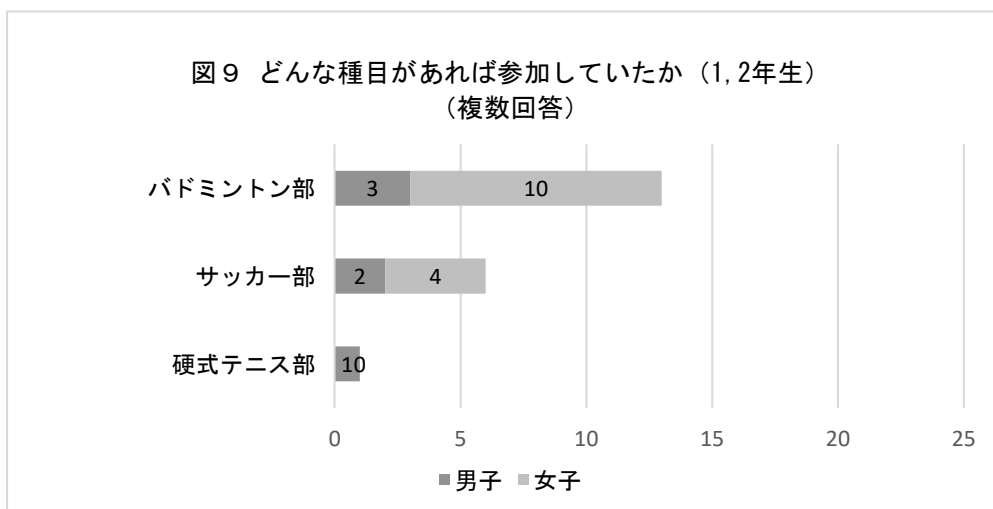
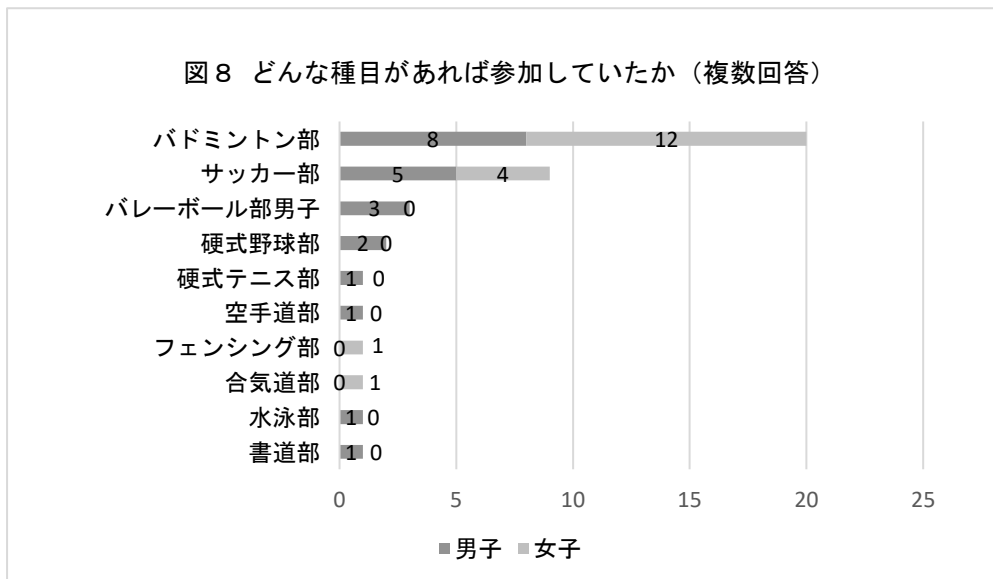
図7 中学校に今ある種目とちがう種目があっても
今の種目に参加している
(5で「その種目に関心が高かったから」以外を選択)



7. どんな種目があれば、参加したか（6で「いいえ」と答えた生徒のみ回答）

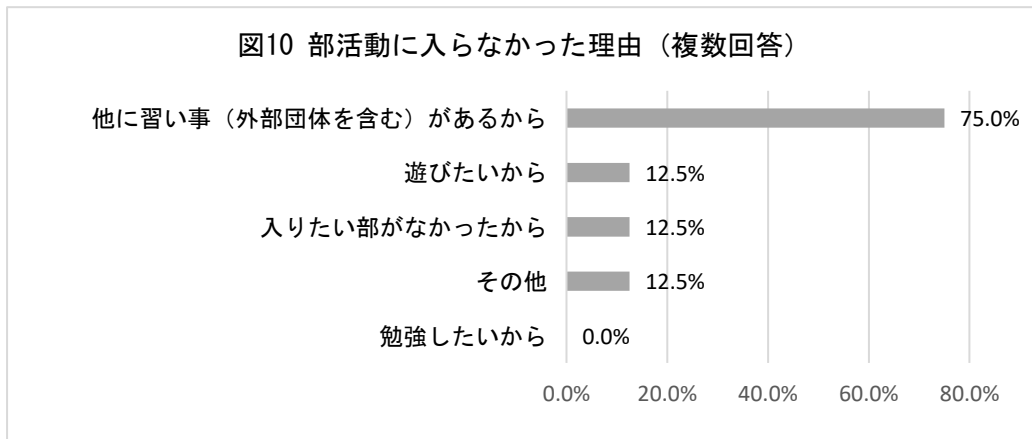
6で「いいえ」と回答した生徒が参加したい種目については、バドミントン部（男子8名、女子12名）、サッカー部（男子5名、女子4名）、バレーボール部男子（3名）、硬式野球部（男子2名）などが挙げられた（図8）。この結果を、1・2年生で絞り込むと、バドミントン部（男子3名、女子10名）、サッカー部（男子2名、女子4名）、硬式テニス部（男子1名）という結果になった（図9）。

このことから、特にバドミントンとサッカーは、生徒ニーズが高いと考えられる。



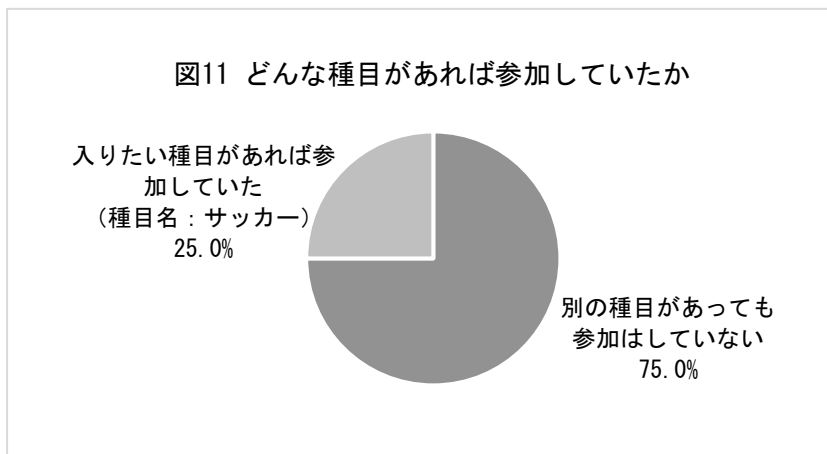
8. 部活動に入らなかった理由（3で「いいえ」と答えた生徒のみ回答）

部活動に入らなかった理由について、75%の生徒が「他に習い事（外部団体含む）があるから」と回答した（図10）。この生徒らは、地域のクラブチーム等に所属していると考えられる。



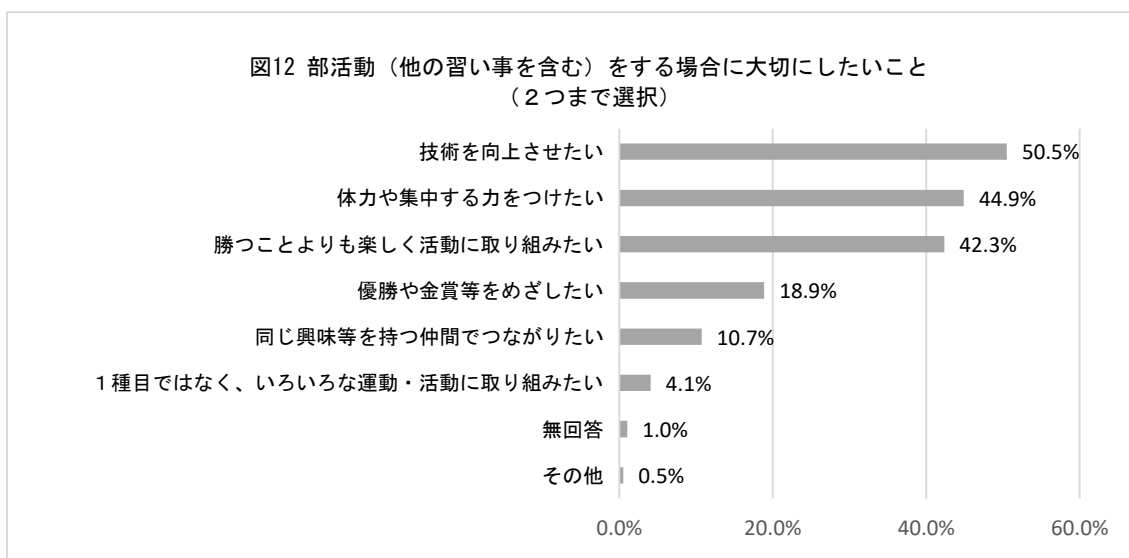
9. どんな種目であれば、参加したか（3で「いいえ」と答えた生徒のみ回答）

どんな種目であれば参加したかという設問に対しては、75.0%の生徒が「別の種目があっても参加していない」と回答し、25.0%の生徒が「サッカー部があれば参加していた」と回答した（図11）。



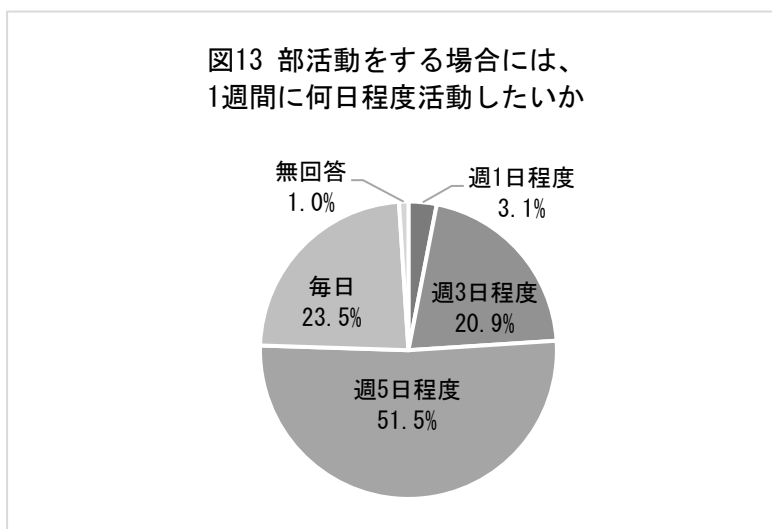
10. 部活動（他の習い事を含む）をする場合に大切にしたいと思うこと

部活動をする場合に大切にしたいことについて、6つの項目から2つまでを選ぶ設問としたところ、「技術を向上させたい」が最も多く、全体の約50.5%が選択した。続いて、約42～45%の生徒が、「体力や集中する力をつけたい」「勝つことよりも楽しく活動に取り組みたい」と回答した。「優勝や金賞等をめざしたい」と回答した生徒は約18.9%であった。また、「同じ興味等を持つ仲間とつながりたい」と回答した生徒は約10.7%、「1種目ではなく、いろいろな運動・活動に取り組みたい」と回答した生徒は約4.1%であった（図12）。



11. 部活動をする場合には、1週間に何日程度参加したいか

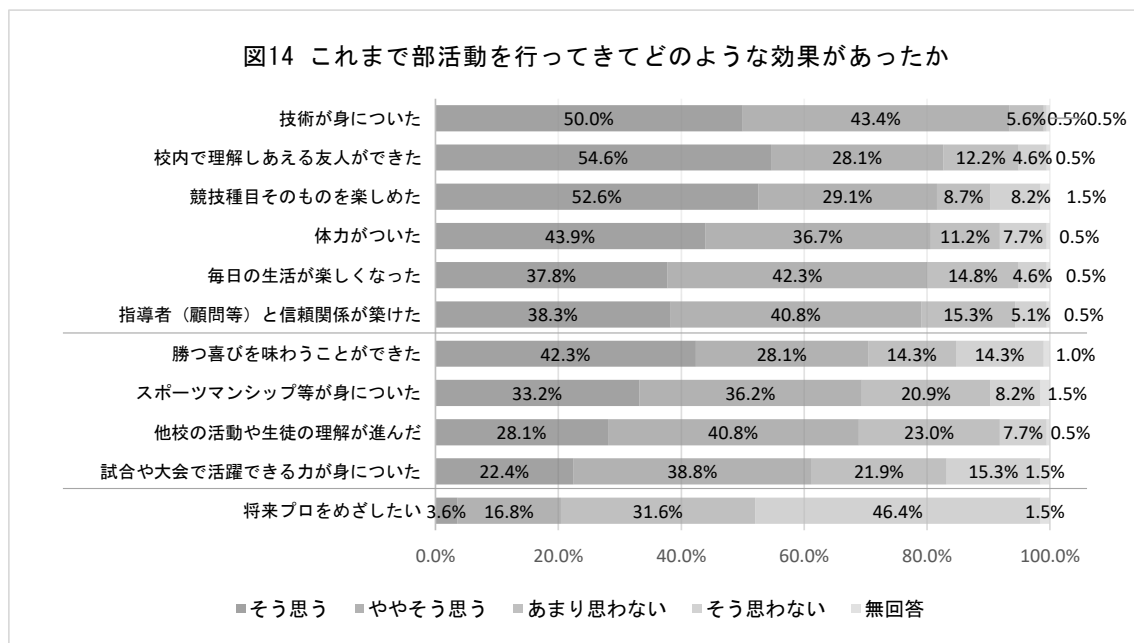
部活動の1週間あたりの活動日数について、週1日程度が3.1%、週3日程度が20.9%、週5日程度が51.5%、毎日が23.5%という結果であった（図13）。



12. これまで部活動（他の習い事を含む）を行ってきて、どのような効果があったと思うか

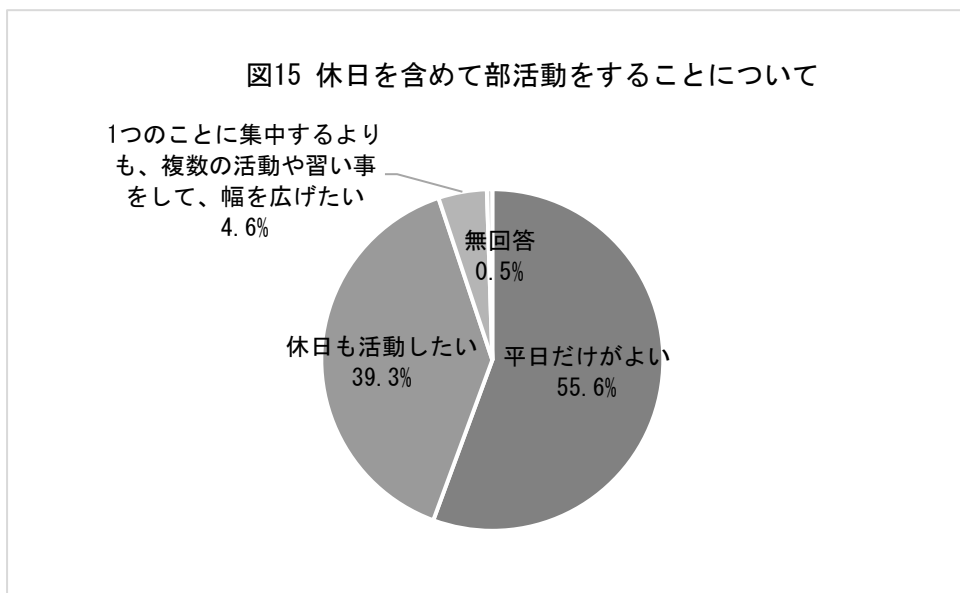
これまで部活動等を行ってきて感じる効果について、「技術が身についた」「校内で理解しあえる友人ができた」「競技種目そのものを楽しめた」「体力がついた」「毎日の生活が楽しくなった」「指導者（顧問等）との信頼関係が築けた」という項目では、概ね80%～95%の生徒が「そう思う」「ややそう思う」と回答している。また、「勝つ喜びを味わうことができた」「スポーツマンシップ等が身についた」「他校の活動や生徒の理解が進んだ」「試合や大会で活躍できる力が身についた」という項目では、約60～70%の生徒が「そう思う」「ややそう思う」と回答している。一方で、「将来プロをめざしたい」という項目については、「そう思う」「ややそう思う」という回答は、わずか20%程度にとどまっている（図14）。

このことと、10の結果から、生徒は、勝利や試合での活躍などの結果というより、技術・体力や人間関係の充足や、生活の充実感などを求めていると推測される。



13. 休日も含めて、部活動をする事について

休日の部活動について、55.6%の生徒が「平日だけがよい」と回答し、39.3%の生徒が「休日も活動したい」と回答した。また、4.6%の生徒が「1つのことに集中するよりも、複数の活動や習い事をして、幅を広げたい」と回答した（図15）。



14. 学校の先生ではなく、部活動を地域の方が指導して下さることについて（自由記述）

自由記述は148件あった。内容は、「専門指導」、「地域とのかかわり」、「教員の負担軽減」の3つのテーマに分類できた。以下、テーマ別に整理する。

○専門指導

- ・知識や情報を教われる …34件
- ・技術の向上や種目の上達につながる …23件
- ・専門の指導者の指導を受けることができたい …12件

○地域とのかかわり

- ・中学生のために動いてくれてありがたい …13件
- ・地域の方とかわかれてよい …11件

○教員の負担軽減

- ・先生の負担の軽減になるのでよい …9件

○その他

- ・学校の先生だけでよい …3件
- ・先生や指導者がいろいろなことを言うので混乱する …2件

15. 部活動について思うこと

自由記述は 56 件あった。内容をポジティブなものとネガティブなものに分けて整理すると次のようになる。

○ポジティブ

- ・楽しい …25 件
- ・活動を増やしてほしい …3 件
- ・友だちとの関係が深まる …2 件
- ・自分を成長させる時間、いいチーム、先輩のようになりたい など …各 1 件

○ネガティブ

- ・練習体制、環境への不満 …7 件
- ・きつい …3 件
- ・休みを増やしてほしい …3 件
- ・好きな種目ではない …2 件
- ・試合に出られるくらい的人数がほしい、他の部と比べて平等でない など …各 1 件

16. 部活動指導員による指導の効果や課題について

自由記述は 33 件あった。内容については、「自身への効果」「指導員のこと」の 2 点に分類することができた。以下、テーマ別に整理する。

○自身への効果

- ・上達した …7 件
- ・苦手なことが克服できる、課題が見つかった、認めてもらおうという気持ちが出てきた など …各 1 件

○指導員のこと

- ・専門的な指導を受けられる …7 件
- ・指導方法が自分に合わない …3 件
- ・熱心に丁寧に教えてくださる、平日は仕事で土日に指導をしてしんどくないのだから、厳しい など …各 1 件

中学校部活動に関するアンケート（保護者用）結果

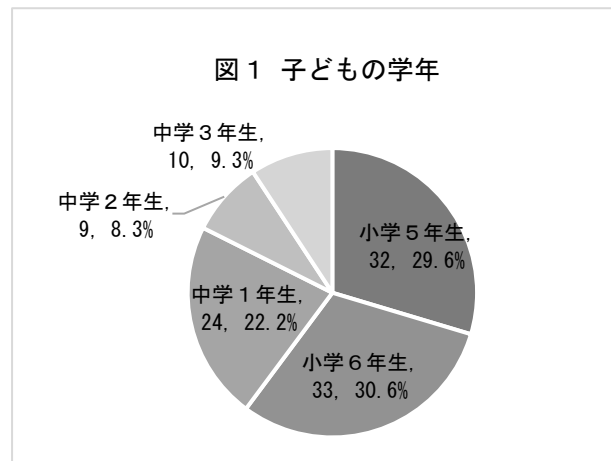
配布数 295 回答数 108（回答率 36.6%）

1. 子どもの学年

子どもの学年について、対象年齢層に子どもが2人以上いる場合は、最年少の子どもの学年を集計したところ（例えば、小学5年生と中学2年生の兄弟の場合は、「小学5年生」と集計）、小学5年生が32人、小学6年生が33人、中学1年生が24人、中学2年生が9人、中学3年生が10人という結果であった（図1）。

このことから、これから中学生にあがる子どもを持つ家庭においては、部活動の地域移行に関心がある家庭が多いと推察される。

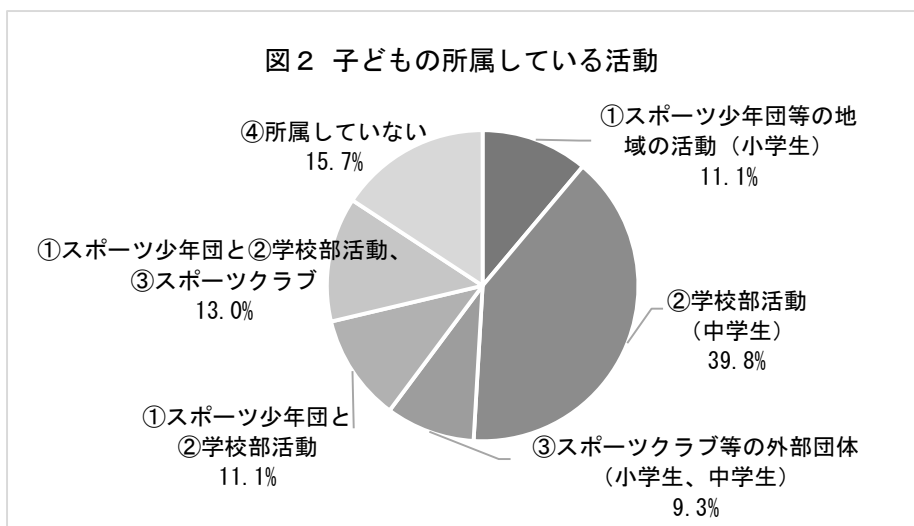
小学5年生	32
小学6年生	33
中学1年生	24
中学2年生	9
中学3年生	10



2. 子どもの所属している活動

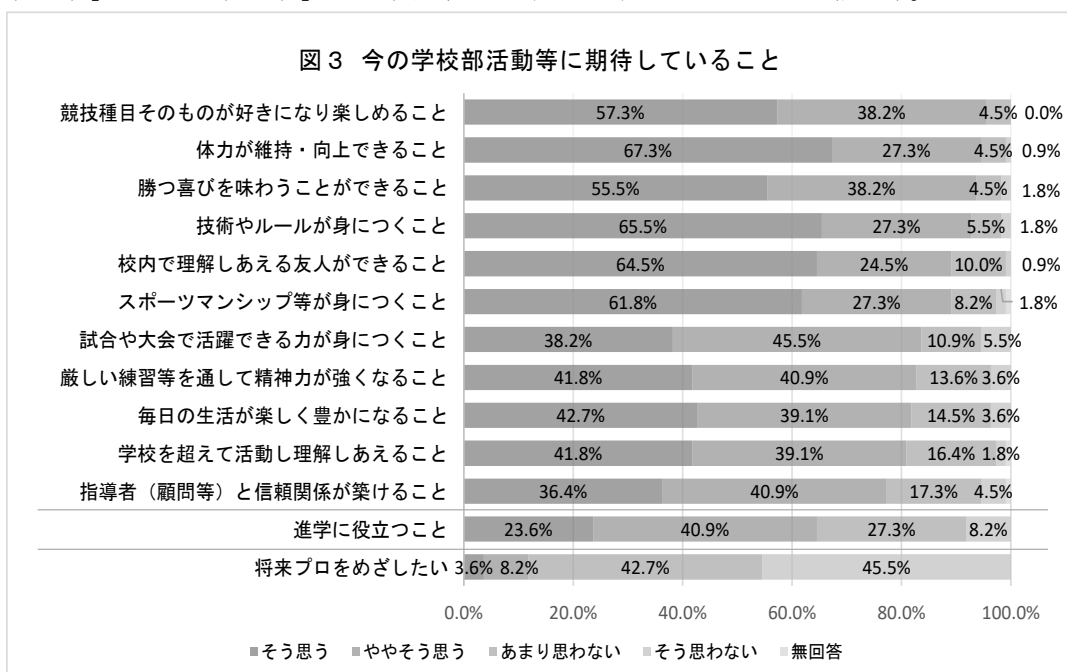
※「①スポーツ少年団等の地域の活動」「②学校部活動」「③スポーツクラブ等の外部団体」「④所属していない」からあてはまるものをすべて選択

子どもの所属している活動について、「①スポーツ少年団等の地域の活動」は11.1%、「②学校部活動」は39.8%、「③スポーツクラブ等の外部団体」は9.3%、「①スポーツ少年団と②学校部活動」は11.1%、「①スポーツ少年団と②学校部活動、③スポーツクラブ」は13.0%、「④所属していない」は15.7%であった（図2）。



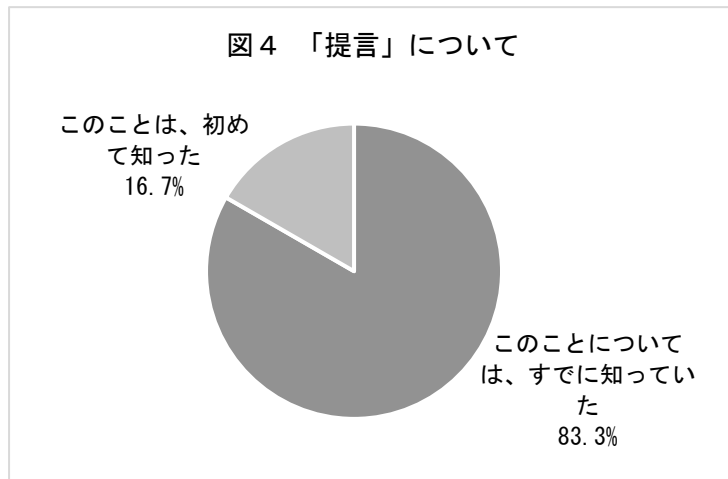
3. 今の学校部活動に期待していること

今の学校部活動に期待していることについて、「競技種目そのものが好きになり楽しめること」、「体力が維持・向上できること」、「勝つ喜びを味わうことができること」、「技術やルールが身につくこと」、「校内で理解しあえる友人ができること」、「スポーツマンシップ等が身につくこと」、「試合や大会で活躍できる力が身につくこと」、「厳しい練習等を通して精神力が強くなること」、「毎日の生活が楽しく豊かになること」、「学校を超えて活動し理解しあえること」、「指導者（顧問等）と信頼関係が築けること」という項目では、約80%を超える保護者が「そう思う」「ややそう思う」と回答している。また、「進学に役立つこと」という項目では、約65%の保護者が「そう思う」「ややそう思う」と回答している。一方で、「将来プロをめざしたい」という項目については、「そう思う」「ややそう思う」という回答はわずか12%にとどまった（図3）。



4. 運動部活動の地域移行に関する検討会議「提言」について

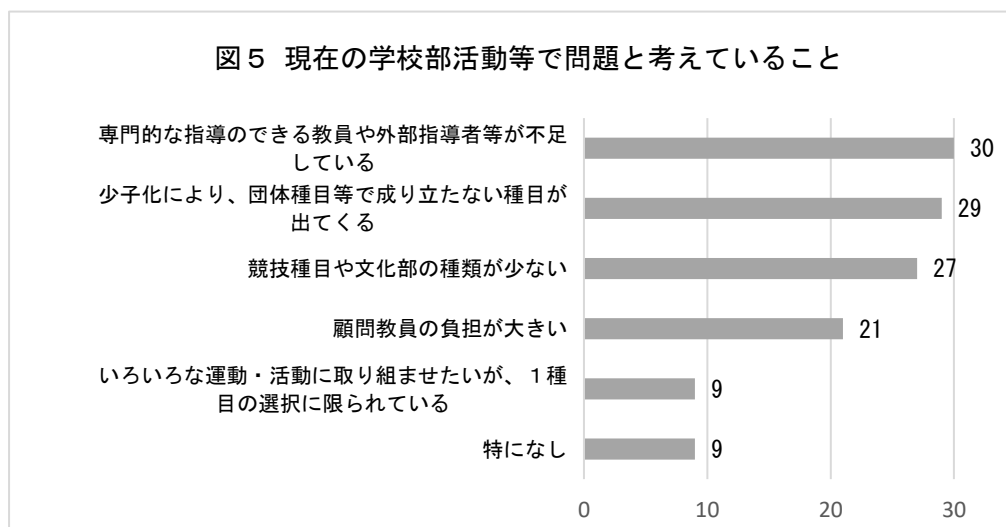
運動部活動の地域移行に関する検討会議「提言」について 83.3%が「このことについては、すでに知っていた」と回答し、16.7%が「このことは、初めて知った」と回答した（図4）。



5. 新たなスポーツ・文化活動の環境構築をめざすにあたり、現在の学校部活動等で問題と考えていること

現在の学校部活動等で問題と考えていることについて、「専門的な指導のできる教員や外部指導者等が不足している」という回答が30件と最も多かった。続いて、29件が「少子化により、団体種目等で成り立たない種目が出てくる」を選択し、27件が「競技種目や文化部の種類が少ない」を選択した。また、21件が「顧問教員の負担が大きい」という回答を選択した。一方で、「いろいろな運動・活動に取り組みたいが、1種目の選択に限られている」「特になし」という回答はわずか9件であった（図5）。

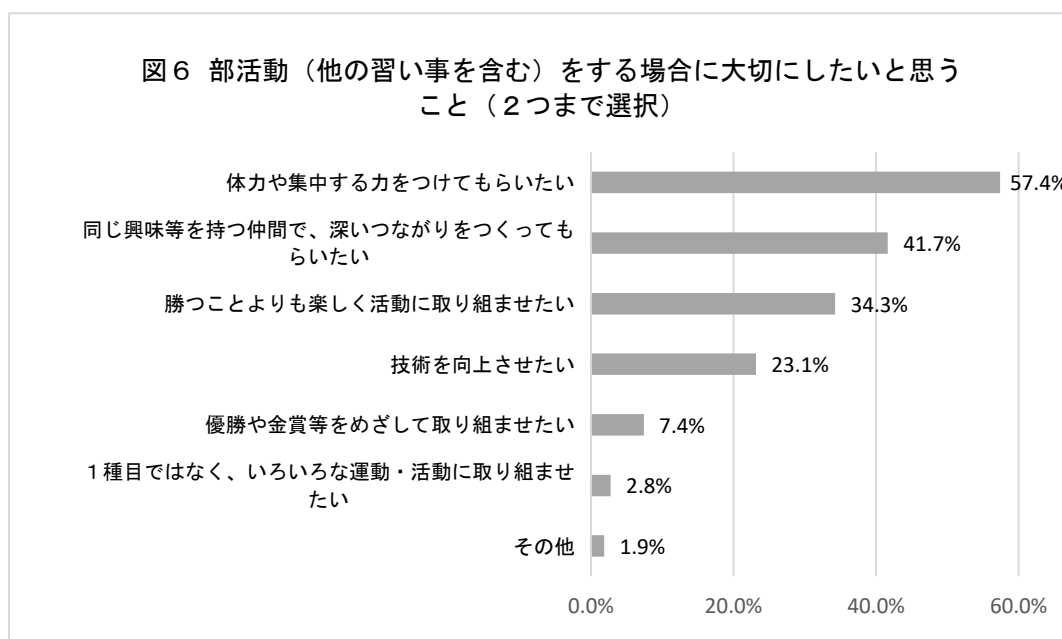
※アンケートフォームの設定ミスにより、7/20までの回答については1つ選択、それ以降の回答についてはあてはまるものをすべて選択として集計。



6. 部活動（他の習い事を含む）をする場合に大切にしたいこと

部活動（他の習い事を含む）をする場合に大切にしたいことについて、6つの項目から2つまで選ぶ設問としたところ、「体力や集中する力をつけてもらいたい」という回答が最も多く、57.4%にのぼった。続いて、「同じ興味等を持つ仲間、深いつながりをつくってもらいたい」41.7%、「勝つことよりも楽しく活動に取り組みたい」34.3%、「技術を向上させたい」23.1%という回答が多かった。一方で、「優勝や金賞等をめざして取り組みたい」は7.4%、「1種目ではなく、いろいろな運動・活動に取り組みたい」は2.8%にとどまった（図6）。

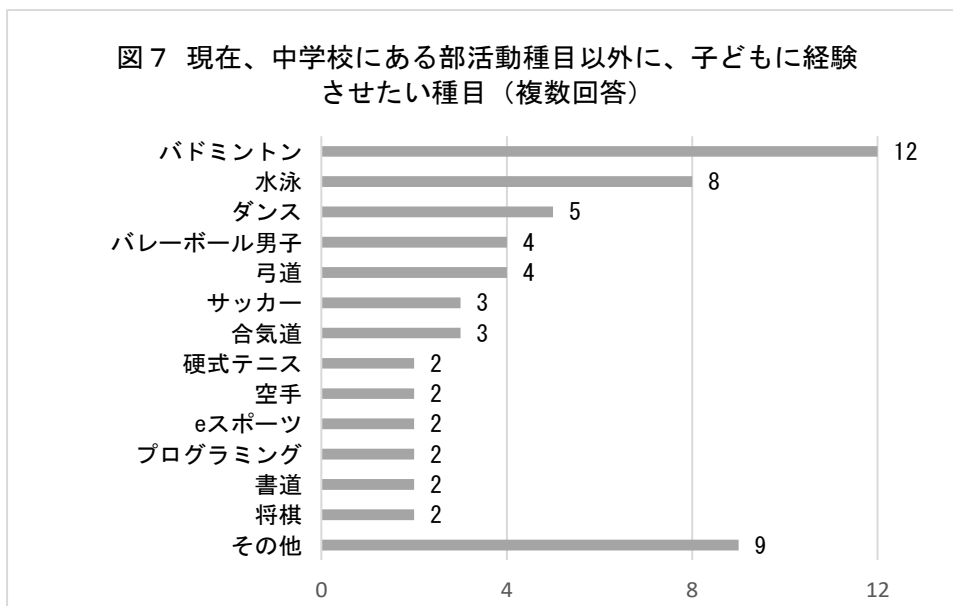
なお、「その他」の回答については、記載内容により、10の自由記述と併せて分析・集計した。



7. 現在、中学校にある部活動種目以外に、子どもに経験させたい種目

現在、中学校にある部活動種目以外に、子どもに経験させたい種目については、「バドミントン」が最も多く、12件の回答があった。続いて、「水泳」が8件、「ダンス」が5件、「バレーボール男子」「弓道」が各4件、「サッカー」「合気道」が各3件という回答であった。また、「硬式テニス」「空手」「eスポーツ」「プログラミング」「書道」「将棋」はそれぞれ2件の回答があり、その他では、スポーツ系として「フットサル」「フェンシング」など、文化系として「演劇」「科学」などが挙げられた（図7）。

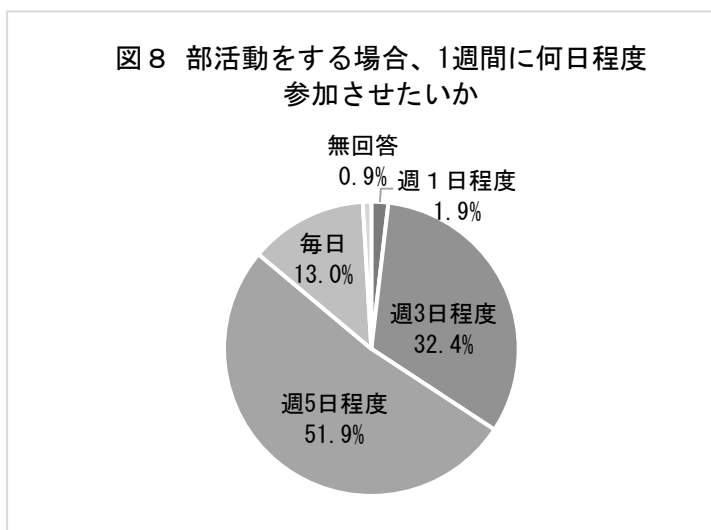
図7 現在、中学校にある部活動種目以外に、子どもに経験させたい種目（複数回答）



8. 部活動をする場合には、週に何日程度参加させたいか

部活動の1週間当たりの希望活動日数について、週1日程度が1.9%、週3日程度が32.4%、週5日程度が51.9%、毎日が13.0%、無回答が0.9%という結果であった（図8）。

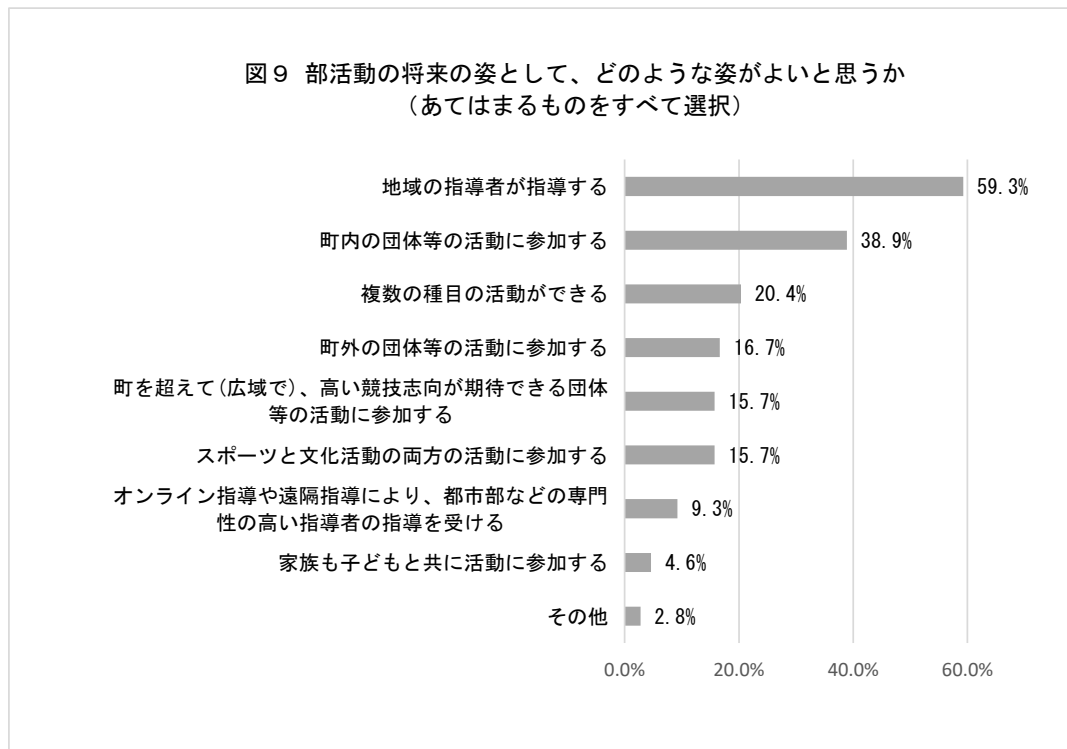
図8 部活動をする場合、1週間に何日程度参加させたいか



9. 部活動の将来の姿として、どのような姿がよいと思うか

部活動の将来の姿として、どのような姿がよいと思うかということについて、8つの項目からあてはまるものをすべて選択する設問としたところ、「地域の指導者が指導する」という回答が最も多く、全体の59.3%が選択した。続いて、38.9%が「町内の団体等の活動に参加する」と回答した。また、約15~20%が、「複数の種目の活動ができる」「町外の団体等の活動に参加する」「町を超えて(広域で)、高い競技志向が期待できる団体等の活動に参加する」「スポーツと文化活動の両方の活動に参加する」と回答した。一方で、「オンライン指導や遠隔指導により、都市部などの専門性の高い指導者の指導を受ける」は9.3%、「家族も子どもと共に活動に参加する」は4.6%にとどまった(図9)。

なお、「その他」の回答については、記載内容より、10の自由記述と併せて分析・集計した。



10. 学校部活動の地域移行について（自由記述）

自由記述は、6および9のその他の回答と併せて34件あった。内容は、地域移行に向けた「全体的なこと」と「具体的なこと」として大きく2つに分けて分析できた。以下、それぞれに整理していく。

【地域移行に向けた全体的なこと】

○部活動のあり方について

- ・部活動は不要である。地域移行ではなく、校外活動としたらよい…3件
- ・部活動は学校生活の一部である。どんな形であれ継続されたい…3件
- ・教員の負担軽減は理解できるので、生徒にとってよい環境にしてほしい…3件
- ・地域移行は学校単位で実施してほしい…1件
- ・町独自のやり方を模索してほしい…1件
- ・地域として生徒のためにしたいこと、できることを考えてほしい…1件

○部活動の実施方法について

- ・休日は不要…5件
- ・平日の地域移行には反対。学校部活動として継続してほしい…2件
- ・平日も毎日活動する必要はない…1件

○生徒の部活動への参加について

- ・強制ではなく、希望者のみ参加できる仕組みにしてほしい…2件
- ・希望する種目があれば部活動、そうでなければ校外活動を認めてほしい…1件
- ・生徒の主体性を尊重できる活動にしてほしい…1件

○広報について

- ・課題や現状、町としての方向性を小学生やその保護者にも説明してほしい…1件

○その他

- ・学校、指導者、保護者が連携して生徒の成長を促せる体制にしてほしい…1件
- ・相談窓口を設置してほしい…1件

【地域移行に向けた具体的なこと】

○生徒に関すること

- ・顧問と指導員の指導方針の違いに生徒が戸惑うことへの不安…3件
- ・地域部活動が過熱して学業に影響が出ないか心配…2件
- ・生徒と教員の人間関係が希薄になることへの不安…1件

○志向に関すること

- ・競技志向の活動は地域部活動から切り離してほしい…3件
- ・競技志向からレクリエーション志向まで幅広く対応してほしい…2件
- ・スポ少から継続できる種目は継続させてほしい…1件
- ・地域に移行することで大会が減ってしまっは困る…1件

○リスク管理に関すること

- ・けがや事故の際の対応への心配…3件
- ・部内でトラブルが起きた際の対応への不安…1件

○保護者の負担に関すること

- ・費用負担が増大することへの不安…2件
- ・広域での活動となった際の送迎の負担が心配…1件

○指導者に関すること

- ・指導者の確保に対する不安…4件
- ・指導者の資質に対する不安…4件
- ・報酬を払ってよいので、質の高い指導者の指導を受けさせたい…2件

中学校部活動に関するアンケート（部活動指導員用）結果

配布数 12 回答数 12（回答率 100%）

1. 指導している部活動

現在、平生中学校の部活動指導員は 12 名である。各部活動ごとの指導員数については、下表のとおりで、ソフトテニス部 4 名、卓球部 2 名（男子部 1 名、女子部 1 名）、バレーボール部 2 名、軟式野球部 1 名、陸上部 1 名、剣道部 1 名、柔道部 1 名という状況である。バスケットボール部、吹奏楽部、総合文化部、家庭科部には、部活動指導員の配置はない。なお、柔道部は臨時部という扱いである。また、剣道部については、種目として部活動を指導する教員は配置しておらず、部活動指導員が指導を行っている。

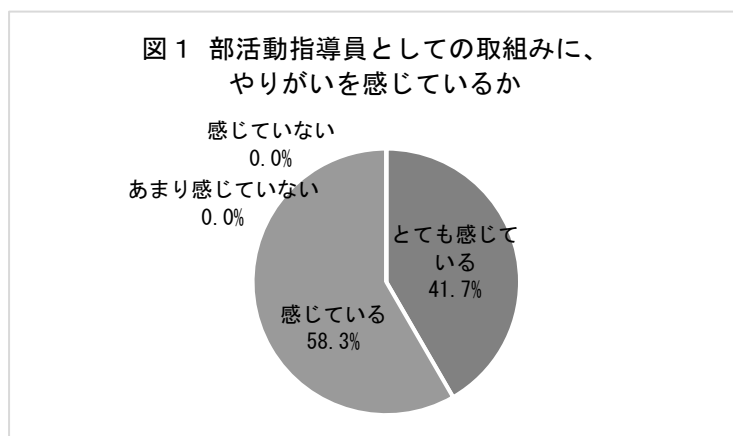
表 1 指導している部活動

ソフトテニス部		4
卓球部	男子部	1
	女子部	1
バレーボール部		2
軟式野球部		1
陸上部		1
剣道部		1
柔道部		1

2. 部活動指導員としての取組みに、やりがいを感じているか

部活動指導員としての取組みに対するやりがいについて、「とても感じている」が 41.7%、「感じている」が 58.3%で、「あまり感じていない」「感じていない」という回答はなかった。

このことから、本町の部活動指導員は、やりがいを感じて取組んでいると言える。



3. 平日および休日の活動日数・時間

平日および休日の部活動指導員の活動日数・時間については、表2のとおりであった。

ソフトテニス部には4名の部活動指導員がおり、休日のみ活動している。1か月あたりの平均活動日数は3.75日（最小値3、最大値4）、1日あたりの平均活動時間は3時間（最小値・最大値3）であった。

卓球部には、男子部1名、女子部1名の計2名の部活動指導員がおり、平日および休日に活動している。男子部の部活動指導員の平日の1週間あたりの平均活動日数は2日、休日の1か月当たりの平均活動日数は2日で、平均活動時間は平日・休日にかかわらず2時間であった。一方で、女子部の部活動指導員の平日の1週間あたり平均活動日数は2日で、平均活動時間は1時間であった。また、休日の1か月当たりの平均活動日数は1日、平均活動時間は2時間であった。

バレーボール部には、2名の部活動指導員がおり、平日および休日に活動している。平日の1週間あたりの平均活動日数は4日（最小値・最大値4）、平均活動時間は1.75時間（最小値1.5、最大値2）であった。また、休日の1か月あたりの平均活動日数は4日（最小値・最大値4）で、平均活動時間は3時間（最小値・最大値3）であった。

軟式野球部の部活動指導員は、休日のみ活動しており、1か月あたりの平均活動日数は1.5日で、平均活動時間は3時間であった。

陸上部の部活動指導員は、平日および休日に活動しており、平日の1週間あたりの平均活動日数は3日、休日の1か月あたりの平均活動日数は4日で、平均活動時間は平日・休日にかかわらず2時間であった。

剣道部の部活動指導員は、平日および休日に活動している。平日の1週間あたりの平均活動日数は5日、平均活動時間は2時間であった。また、休日の1か月あたりの平均活動日数は4日で、平均活動時間は2.5時間であった。

柔道部の部活動指導員は、平日および休日に活動している。平日の1週間あたりの平均活動日数は4日、平均活動時間は2時間であった。また、休日の1か月あたりの平均活動日数は6日で、平均活動時間は3時間であった。

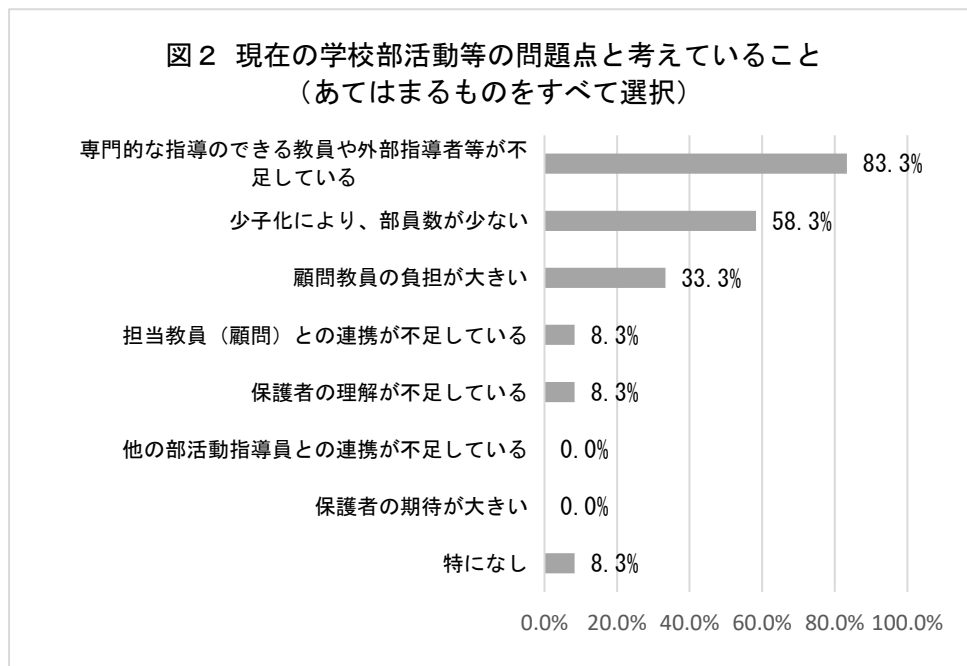
表2 平日および休日の活動日数・時間

	指導員数	平日活動日/週	平日活動時間/日	休日活動日/月	休日活動時間/日
ソフトテニス部	4	0	0	3.75	3
卓球部	男子部	1	2	2	2
	女子部	1	2	1	2
バレーボール部	2	4	1.75	4	3
軟式野球部	1	0	0	1.5	3
陸上部	1	3	2	4	2
剣道部	1	5	2	4	2.5
柔道部	1	4	2	6	3

4. 現在の学校部活動等の問題点と考えていること

現在の学校部活動等の問題点と考えていることについて、7つの項目からあてはまるものをすべて選択する設問としたところ、「専門的な指導のできる教員や外部指導者等が不足している」との回答が83.3%と最も多い結果となった。続いて、「少子化により、部員数が少ない」が58.3%、「顧問教員の負担が大きい」が33.3%であった。

一方で、「担当教員（顧問）との連携が不足している」が8.3%、「保護者の理解が不足している」が8.3%、「他の部活動指導員との連携が不足している」および「保護者の期待が大きい」は0%であった。また、「特になし」との回答は8.3%であった（図2）

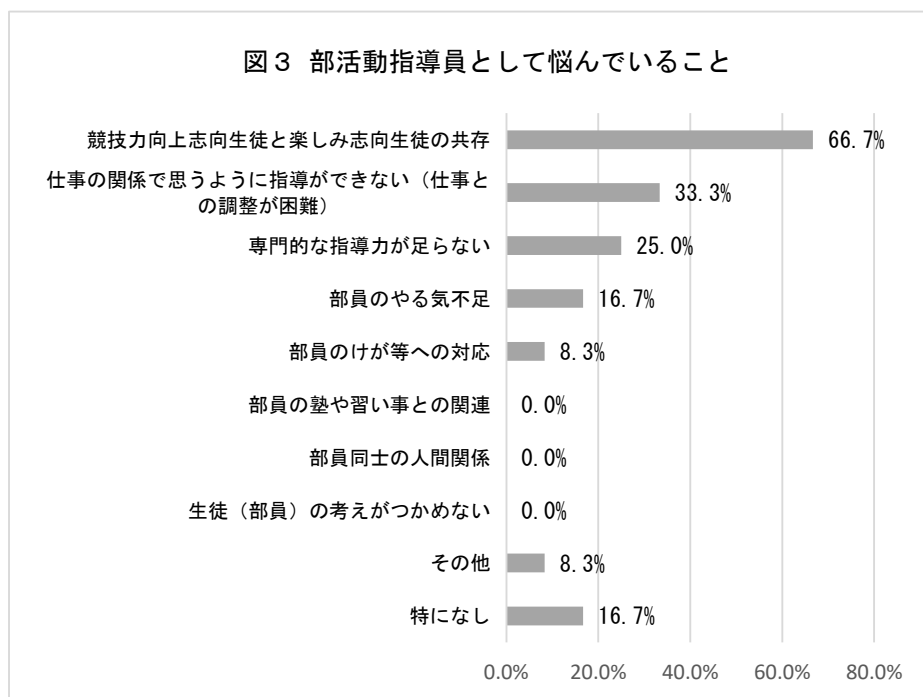


5. 部活動指導員として、悩んでいること

部活動指導員としての悩みについて8つの項目からあてはまるものをすべて選ぶ設問としたところ、図3のような結果となった。最も多かったのは「競技力向上志向生徒と楽しみ志向生徒の共存」で66.7%の部活動指導員が回答した。続いて、「仕事の関係で思うように指導できない（仕事との調整が困難）」が33.3%、「専門的な指導力が足りない」が25.0%、「部員のやる気不足」が16.7%、「部員のけが等への対応」が8.3%であった。「その他」としては、「スポ少の指導との両立についての悩み」が挙げられた。

一方で、「部員の塾や習い事との関連」「部員同士の人間関係」「生徒（部員）の考えがつかめない」といった回答はなかった。また、「特になし」との回答は16.7%であった（図3）。

図3 部活動指導員として悩んでいること



6. 部活動の地域移行を、将来的には「平日」まで広げていくことが国の「提言」に示されているなか、将来、地域の指導者として中学生の指導をすることになった場合に重要だと思うことや課題と考えられること（自由記述）

自由記述は8件あった。内容は、「指導者の確保」、「学校や顧問との連携」に大別できた。以下、詳細について整理していく。

【指導者の確保】

- ・平日の指導については仕事の関係により指導できる人は限られてくると思う。（専門的な知識を持った退職者等）
- ・平日の指導となれば、仕事をやめた年金受給者の方でないと指導は難しいと思います。
- ・指導者不足（若手が少ない、地域に残る指導者が少ない、仕事との両立は…？）
- ・指導員の確保（人数）により、計画を立ててスキなく、指導できるかが課題。
- ・ソフトテニス部同様、最低4名は必要だと思いますが、平生町内で指導員を確保するのは難しいと思います。指導員としてではなく、管理員のような形で良いことになれば地域移行も可能なのではと思います。
- ・指導者としての権限、責任をどこまで与えられるか。それにより、指導者を受けるか受けないか、判断するようになると思う。

【学校や顧問との連携】

- ・顧問との連携
- ・指導者と学校の連絡を充分に取ること

7. 部活動の地域移行では、移行の在り方をはじめ、地域の受け皿や新たな組織の検討、指導者の確保と質、報酬や予算・会費の在り方、保険、地域部活動に係る理解促進など、たくさんの課題がある。

こうした中、学校部活動の地域移行にあたって、心配な点や意見等（自由記述）

自由記述は9件あった。内容は、「地域移行に対する意見」「指導者の確保」「その他」に分類できた。以下、詳細を整理していく。

【地域移行に対する意見】

- ・たくさんの課題を抱えながらも「町としてできること」が不透明で、ほぼ「地域に丸投げ」としか感じられない。本当に生徒のことを考えているのか？「ただ先生の働き方改革のため」に地域の人に「何とかしてほしい」と言っているように感じた。
- ・地域が引き受けるにしても「責任」と「時間」を要することになるため、「人件費」や人数等の算出も明確にしないと、今後トラブルや苦情も考えられることから、指導者は引き受けたくないのが正直なところではないか。

【指導者の確保】

- ・専門的な知識を持った指導者の確保
- ・指導者の確保が難しい状況にあります。郡内の別の中学校でも当然部活動指導員の話が出てくるのではないのかと思います。地区によっては指導者の確保が難しい地域もあり、郡の連盟としても指導者の確保をしていかないといけないと思っています。平日の指導者は特に難しいのでは？
- ・休日はよいが、平日は仕事、都合により、指導できない場合があり、各年代の指導者が行うことにより、地域移行できると思います。
- ・自分の都合がつく範囲であれば、単独指導は可能である。しかし、部活動指導を中心に生活しているわけではないので、すべてを任せられても困る。あくまでも手伝いというスタンスで考えている。

【その他】

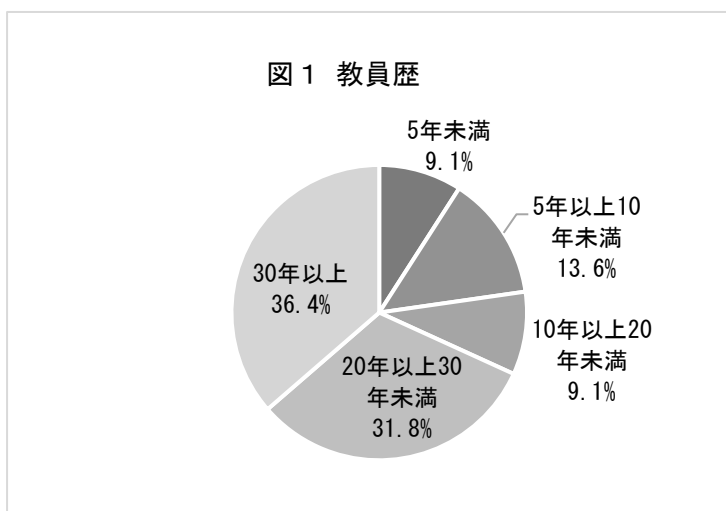
- ・地域移行した場合の土曜日、日曜日の両日とも練習可能になるのですか？
- ・近隣の学校との連携
- ・まとめる組織
- ・現状のまま地域移行するとなると、仕事の都合上、休日の指導が難しいため、男子部と女子部の指導の差が生じてしまい、平等性に欠けるので、単独指導になった場合は、退任を考えています。
- ・学校の指導方針と地域の指導方針の違う時

中学校部活動に関するアンケート（教員用1）結果

配布数 22 回答数 22（回答率 100%）

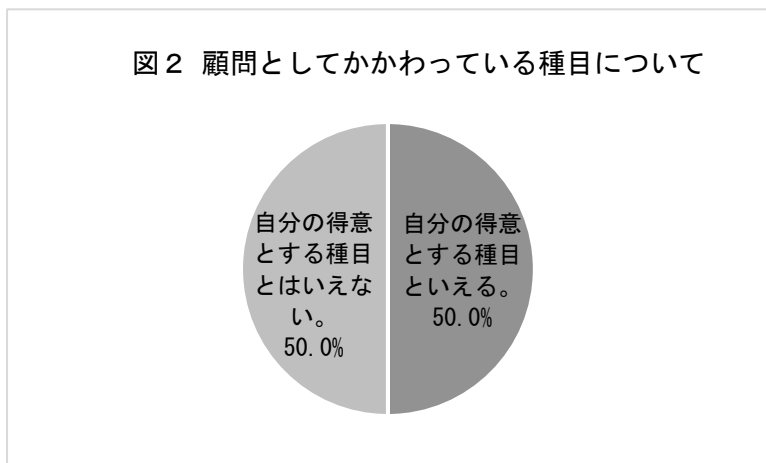
1. 教員歴

教員歴について、5年未満が9.1%、5年以上10年未満が13.6%、10年以上20年未満が9.1%、20年以上30年未満が31.8%、30年以上が36.4%という結果であった（図1）。

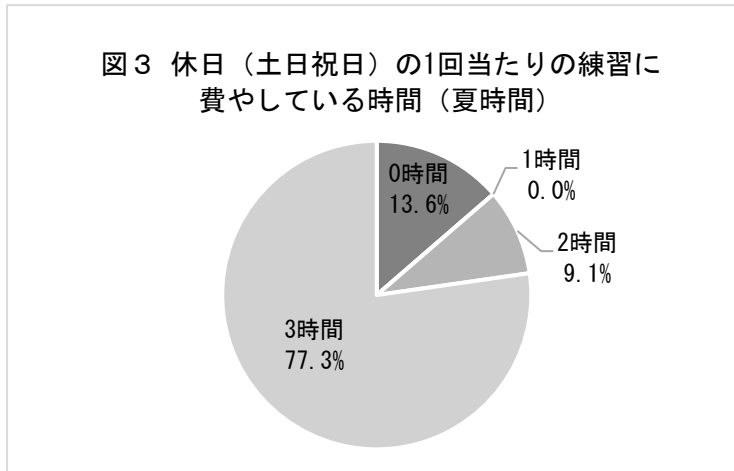


2. 部活動顧問としてかかわっている種目について

部活動顧問としてかかわっている種目について、「自分の得意種目といえる」が50%、「自分の得意とする種目とはいえない」が50%という結果であった（図2）。

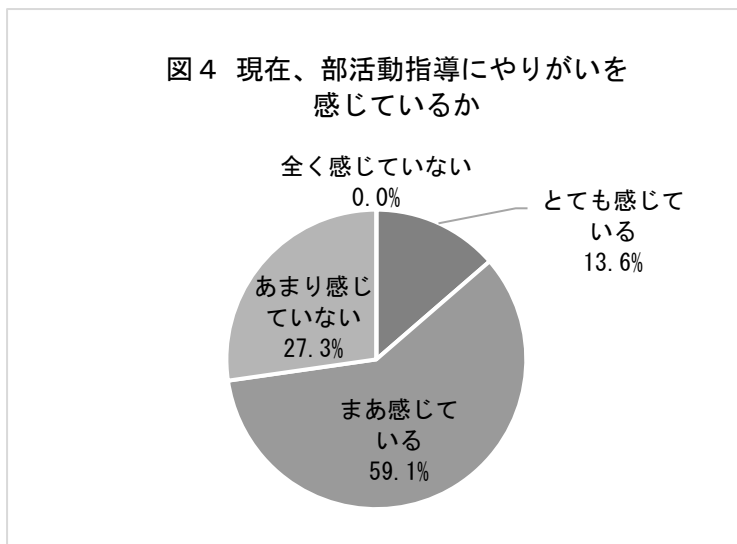


3. 休日（土日祝日）の部活動について、1 回あたりの練習に費やしている時間（夏時間）
休日（土日祝日）の部活動で、1 回あたりの練習に費やしている時間について、「0 時間」が 13.6%、「1 時間」が 0%、「2 時間」が 9.1%、「3 時間」が 77.3%であった（図 3）。



4. 部活動指導のやりがいについて

現在、部活動指導にやりがいを感じているかという設問について、「とても感じている」13.6%、「まあ感じている」59.1%、「あまり感じていない」27.3%、「全く感じていない」0%という結果であった（図 4）。



5. 部活動指導の負担感について

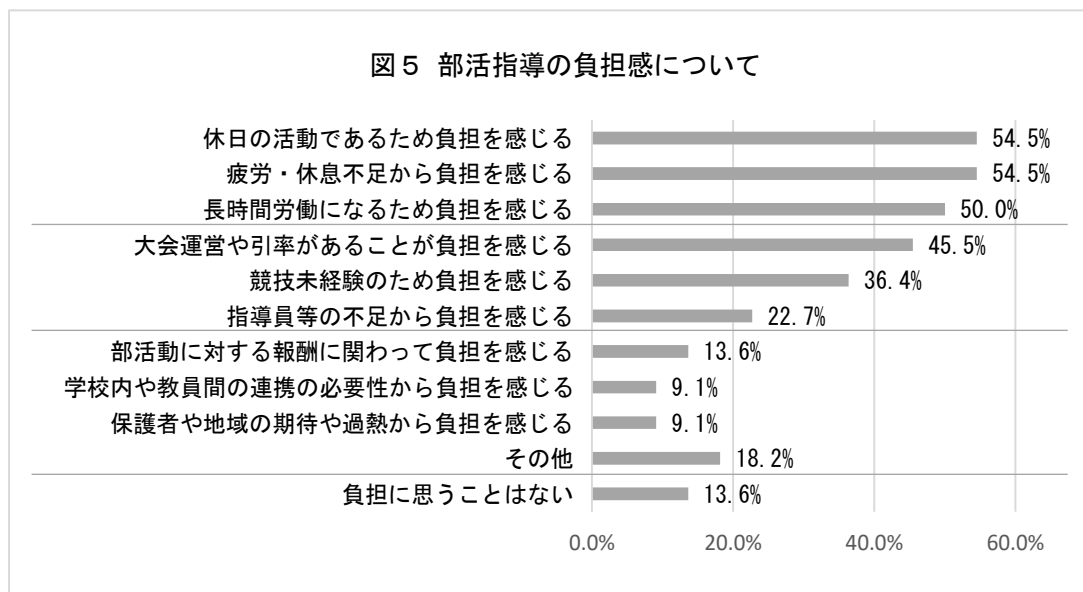
部活動指導の負担感について、10の項目からあてはまるものをすべて選ぶ設問としたところ、図5のような結果となった。

特に、半数以上の教員が、「休日の活動であるため負担を感じる」「疲労・休息不足から負担を感じる」「長時間労働になるため負担を感じる」と回答した。このことから、過半数の教員が、部活動指導による労働状況に負担を感じていると捉えられる。

また、45.5%の教員が「大会運営や引率があることが負担を感じる」、36.4%の教員が「競技未経験のため負担を感じる」、22.7%の教員が「指導員等の不足から負担を感じる」と回答した。これらは、部活動指導の種目に関することに負担を感じていると考えられる。

さらに、13.6%の教員が「部活動に対する報酬に関わって負担を感じる」、9.1%の教員が「学校内や教員間の連携の必要性から負担を感じる」、「保護者や地域の期待や過熱から負担を感じる」と回答しており、これは、部活動指導に付随する問題について負担を感じていると言える。

一方で、13.6%の教員が「負担に思うことはない」と回答した。なお、「その他」については、「学期末などの繁忙期に負担を感じる」、「負担ではあるが、必要でもあると思っている」といった回答であった。

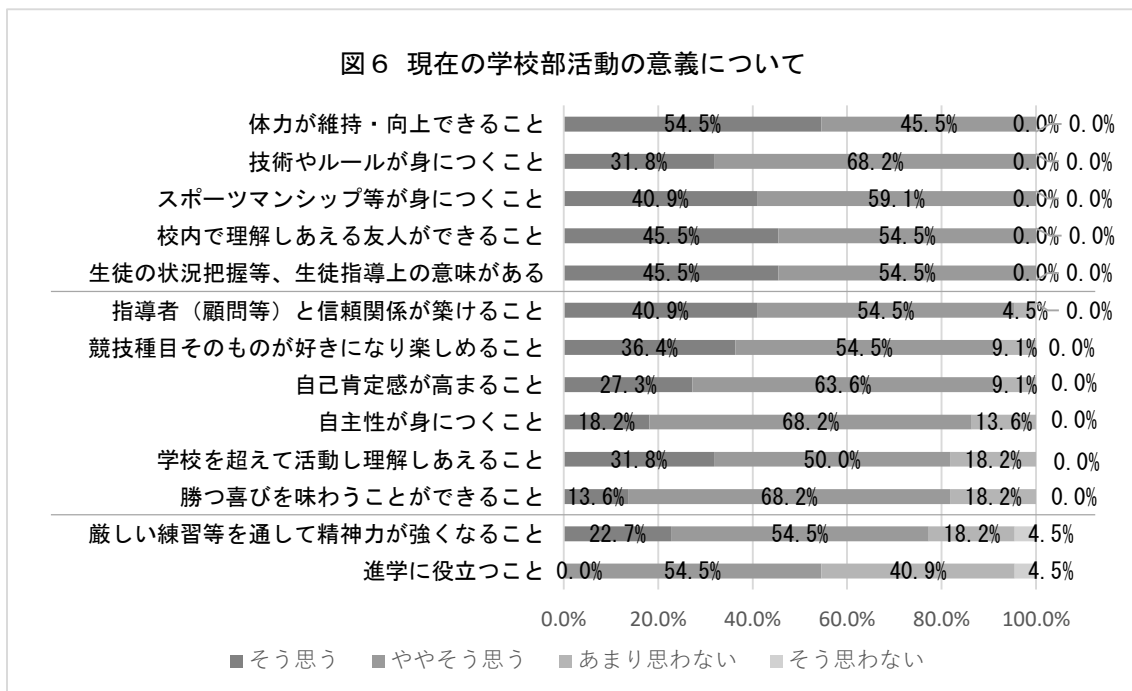


6. 現在の学校部活動の意義について

現在の学校部活動の意義について、「体力が維持・向上できること」「技術やルールが身につくこと」「スポーツマンシップ等が身につくこと」「校内で理解しあえる友人ができること」「生徒の状況把握等、生徒指導上の意味がある」という項目については、すべての教員が「そう思う」「ややそう思う」と回答した。

また、「指導者（顧問等）と信頼関係が築けること」「競技種目そのものが好きになり楽しめること」「自己肯定感が高まること」「自主性が身につくこと」「学校を超えて活動し理解しあえること」「勝つ喜びを味わうことができること」という項目については、概ね80～95%の教員が「そう思う」「ややそう思う」と回答した。

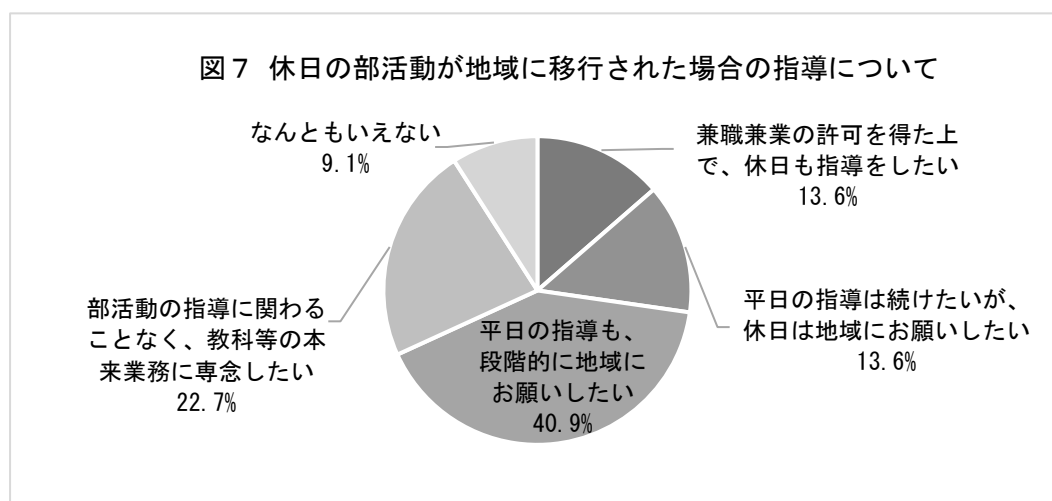
一方で、「厳しい練習等を通して精神力が強くなること」に関しては、約80%が肯定的な回答であるものの、約5%は「そう思わない」と回答した。「進学に役立つこと」に関しては、「そう思う」「ややそう思う」が約55%、「あまりそう思わない」「そう思わない」が約45%と意見が割れる結果となった（図6）。



7. 休日の部活動が地域に移行された場合の指導について

国は、「休日の部活動の段階的な地域移行を『令和5年度以降、段階的に実施する』」ことを示している。これを踏まえて、休日の部活動が地域に移行された場合の指導について、「兼職兼業の許可を得た上で、休日も指導をしたい」という回答は、13.6%であった。また、「平日の指導は続けたいが、休日は地域にお願いしたい」という回答は、13.6%であった。一方で、「平日の指導も、段階的に地域にお願いしたい」という回答は40.9%、「部活動の指導に関わることなく、教科等の本来業務に専念したい」という回答は22.7%にのぼった。さらに、「なんともいえない」という回答は、9.1%であった（図7）。

これらのことから、約30%弱は、地域移行後も何らかの形で部活動の指導に関わりたいと考えており、約60%は、部活動指導を地域にお願いしたいと考えていることが分かった。

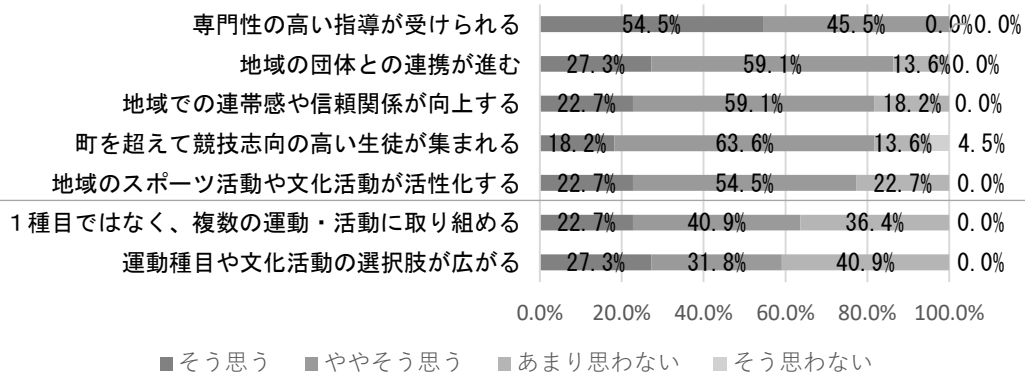


8. 休日の部活動の地域移行により、期待される効果について

休日の部活動の地域移行により、期待される効果に関して、「専門性の高い指導が受けられる」という項目については、すべての教員が「そう思う」「ややそう思う」と回答した。また、80%前後の教員が、「地域の団体との連携が進む」「地域での連帯感や信頼関係が向上する」「町を超えて競技志向の高い生徒が集まれる」「地域のスポーツ活動や文化活動が活性化する」という項目について肯定的な回答をした。一方で、「1種目ではなく、複数の運動・活動に取り組める」「運動種目や文化活動の選択肢が広がる」という項目について、「そう思う」「ややそう思う」という回答は、約60%程度であった（図8）。

さらに、「その他」の回答として、「他地域のレベルの高い生徒との練習により、生徒の向上心が育つ」、「教員の業務時間の改善によるプライベート時間の確保」などが挙げられた。

図8 休日の部活動が地域に移行されることで、
どのような効果を期待するか

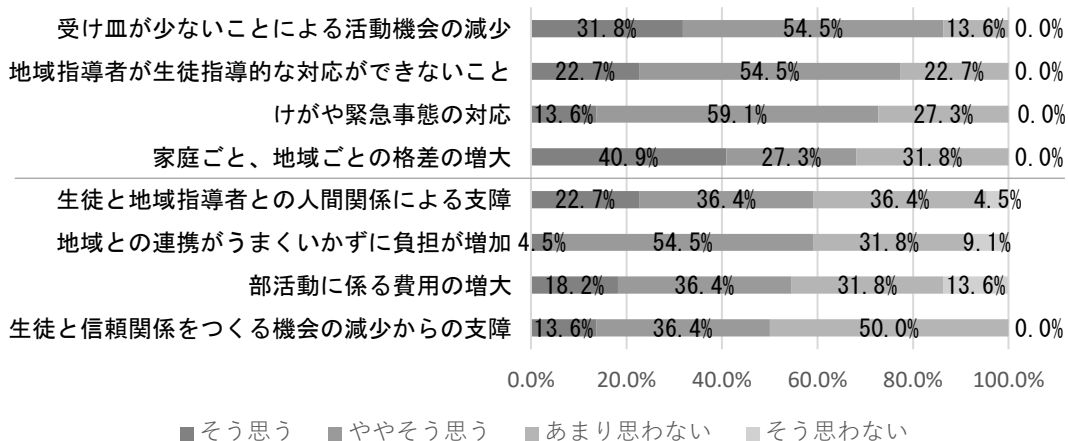


9. 休日の部活動の地域移行により、考えられる課題について

休日の部活動が地域に移行されることで考えられる課題に関して、約 85%の教員が「受け皿が少ないことによる活動機会の減少」という項目について、「そう思う」「ややそう思う」と回答した。また、約 70%～80%の教員が、「地域指導者が生徒指導的な対応ができないこと」「けがや緊急事態の対応」「家庭ごと、地域ごとの格差の増大」という項目について「そう思う」「ややそう思う」と回答した。さらに、約 50%～60%の教員が「生徒と地域指導者との人間関係による支障」「地域との連携がうまくいかずに負担が増加」「部活動に係る費用の増大」「生徒と信頼関係をつくる機会の減少からの支障」という項目について「そう思う」「ややそう思う」と回答した（図9）。

「その他」の回答としては、「現状の部活動にある種目があるまま地域に移行できるのか」、「休日のみの移行となると、試合や演奏会に教員が参加できない状況が生じる」、「活動場所までの安全面」、「生徒同士のトラブル」などが挙げられた。

図9 休日の部活動が地域に移行されることで、
課題としてどのようなことが考えられるか



10. 学校部活動の地域移行について（自由記述）

教員①

- ・各学校や地域で、令和5年度以降、地域移行が段階的にできるのか。現状の部活動と同等の生徒の生命の安全性の確保に努めてほしい。
- ・複数の指導員を確保すること。緊急時に、指導員が適切に対応できるよう複数の指導員の確保と、種目による大まかな指導適正人数のガイドライン、緊急時の対応研修・マニュアル等も指導員に必要と思われる。
- ・現在の休日の部活動では、顧問が一人でも複数の教員が学校におり、熱中症等の事故やけがが発生したときでも、けが対応、保護者連絡、関係機関連絡、部活動生徒の指導、保健室利用等緊急時の対応を職員室で一声かけると他の教員の協力を得て、割とスムーズに対応することができる。（教頭や教務等多忙な教員が出勤している事が多い。）これができる安心感もある。
- ・異種目の指導員同士の協力体制が構築できていると、緊急事に対する不安感を和らげることもできると思われる。

教員②

- ・具体的な方向性が示されない状態で地域移行が始まることに不安を感じる。（種目・指導者の確保・活動時間や場所・費用・クラブとしての活動方針など）
- ・指導者と生徒・保護者とのトラブルに対して、誰が対応するのかを明確にしておく必要がある。（現在は学校教員が対応しているが・・・）
- ・今後、中体連大会等がどのように行われるのかが不透明な状態であるが、今まで教員が運営してきた大会を、誰がどのように運営していくのかが課題となる。

教員③

- ・段階を踏んで、移行していくことが大事だ。生徒は新しいシステムにすぐに移行できると思うが、保護者や教員の意識がついていくかが、心配だ。

教員④

- ・まずは休日から進めるのが現実的だろう。ただし、平日も、教員が勤務時間を超えて指導するのは、なるべく早く解消していくべきである。
- ・地域移行になると費用が増えるという意見があるが、費用は現状と同じはずである。増えると予想される費用は、現状では教員が無償で奉仕しているということに他ならない。地域移行になれば、指導者に手当を支給するというのなら、今すぐ、現状で担っている教員にも支給するのが筋だろう。
- ・平生町は、この取組にいち早く、加速感をもって対応していると思う。普段から、保護者や地域の学校への温かい協力・支援が得られていることにも感謝している。先駆的なモデルになることを望みたい。